

# 【概要】市民アンケート結果最終報告

- 【調査内容】○調査対象 18歳以上の市民（無作為抽出） 送付数 3,000人（回収数：1,379人、46.0%） ○調査方法 郵送調査・自記式アンケート  
○設問内容 ① 生活全体に関する項目 ② 市の施策の満足度・将来の重要性 ③ 行政サービス維持に向けた取組  
④ 市民負担と市民サービスのあり方 ⑤ デジタル技術を活用した行政サービス等

## 【1.生活全体に関する項目のまとめ】

- ・多くの市民は概ね静岡市での暮らしに満足しており、特に、「食生活」や「住生活」は満足度が高い。
- ・全国調査と同様に、「所得・収入」や「資産・貯蓄」に不満感があり、特に若年層の不満感が高いものの、県外出身者の満足度は比較的高い。
- ・「レジャー・余暇生活」については不満感が高く、特に30代、40代の女性が不満を感じている。
- ・「心の豊かさを感じる時がいつか」という設問では、ゆったりと休養しているとき(56.8%)、家族団らんのとき(52.1%)、趣味やスポーツに熱中しているとき(49.9%)、友人や知人と雑談・会合しているとき(45.7%)であり、仕事に打ち込んでいるとき(17.3%)は全国よりも12.3ポイント低い。

## 【前回調査比較(平成25年)】

- ・新型コロナウイルスによる影響からか、食生活やレジャー・余暇生活の満足度が減少したものの、自己啓発・能力向上の満足度が高まっている。
- ・「仕事に打ち込んでいるとき」に心の豊かさを感じる割合が減少し、趣味やスポーツ、休養しているときの割合が増加している。

## 【年代別比較（30代以下と40代以上）】

- ・若年層は所得・収入、資産・貯蓄に関して不満を感じておりいるものの、食生活や住生活の満足度は高く、生活全体としては若年層の方が中高年齢層よりも満足している。

➔ 静岡市民も「所得や収入」、「資産・貯蓄」を良くしたいとの思いもあるものの、全国と比較すると「レジャー・余暇生活」を充実させたいとの思いが強く、休養や家族や友人との時間、趣味やスポーツ等に心の豊かさを感じていることから、**ワークライフバランスのとれた生活**を求めている。

## 【2.市の施策に関する項目のまとめ】

安全安心	災害の激甚化やコロナによって、「安全安心」に対する意識が高まっているが、通常の医療体制や生活インフラの維持等については概ね満足している。
くらし	子どもや高齢者、障がい者支援等の福祉関連とともに、環境保全や地球温暖化対策等の持続可能な自然環境を維持することについても重要性が高いと認識している。
活気・賑わい	安全安心、くらし面の施策と比較すると満足度が低く、特に企業活動の活性化や中心市街地活性化等の経済活性化に積極的に取り組むべきであると感じている。

## 【前回調査比較(平成25年)】

- ・災害の激甚化や新型コロナウイルスの影響を受け、「自然災害等への事前対策・対応」や「芸術や文化に親しむ機会・施設の充実」に対しての現状への満足度が減少している。

## 【年代別比較（30代以下と40代以上）】

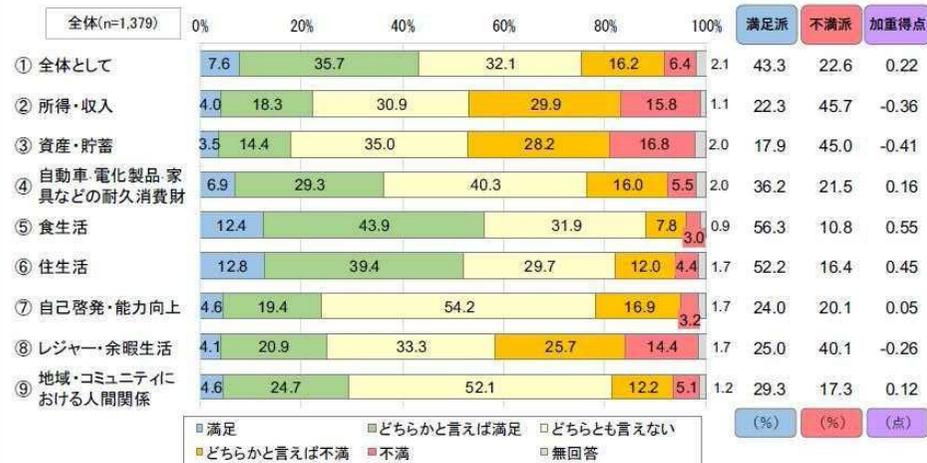
- ・生活全体に対するアンケート同様に若年層の方が全体的に満足度が高い傾向にあり、若年層は子育て、中高年齢層は高齢者支援、道路のバリアフリーなど、ライフステージにあったニーズが確認される。
- ・若年層は「安全安心に関する項目」とともに「移住・定住を促進することで、人口・活力を維持する取組み」に重要性を感じている。

➔ 災害の激甚化や新型コロナの影響を受け「安全安心」、市民生活に直結することもや高齢者などの「福祉施策」、世界的な脱炭素に向けた進展やSDGsの浸透による「持続可能な自然環境の維持」、企業活動や中心市街地活性化等の「経済活性化」に対するニーズが高いことが伺える。

# 【概要】市民アンケート結果最終報告 (生活全体)

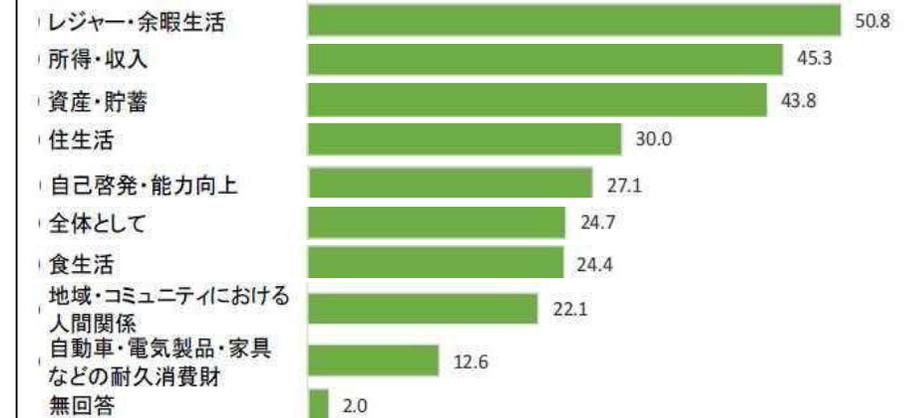
【調査内容】 ○調査対象 18歳以上の市民（無作為抽出） ○送付数 3,000 人（回収数：1,379人、46.0%） ○調査方法 郵送調査・自記式アンケート

○問1 現在の満足度：あなたは、現在の生活にどの程度満足しているか率直にお答えください。



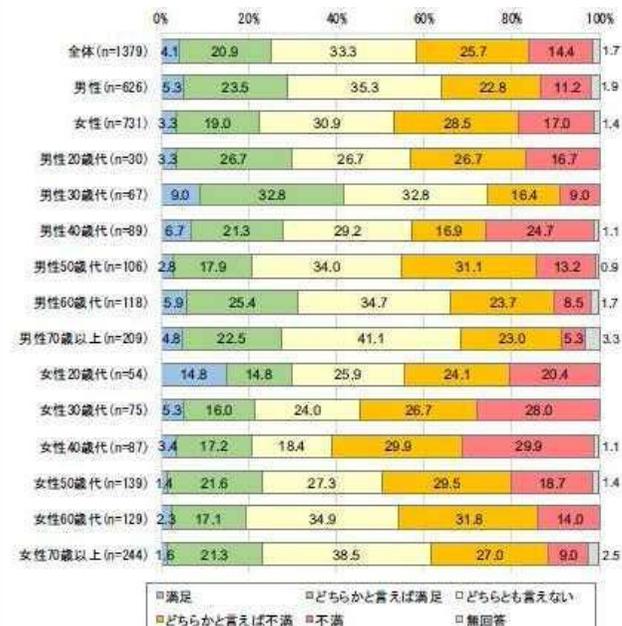
全体としては満足しており、特に⑤食生活、⑥住生活については多くの市民が満足しているものの、②所得・収入、③資産・貯蓄、⑧レジャー・余暇生活に不満を持っている市民が多い。全国の調査と比較すると、静岡市民は③資産・貯蓄については、「不満・どちらかと言えば不満」が 9.3ポイント低いものの、⑧レジャー・余暇生活が6.6ポイント高い。

○問2 あなたは、今後の生活において、特にどのような面を充実させたいと思いますか。この中から、いくつでもあげてください。



全体では「レジャー・余暇生活」が50.8%で最も高かった。次いで「所得・収入」が45.3%、「資産・貯蓄」が43.8%で上位となっている。4位の「住生活」から8位の「地域における人間関係」までは20%台から30%と、ほぼ横並びとなっている。9位の「耐久消費財」は12.6%と、他の項目より低い割合となっている。

## ⑧レジャー・余暇生活(年齢別)



男性の満足派は28.8%、不満派は34.0%、女性では満足派が22.3%、不満派が45.5%と特に不満派の割合が男性より11.5ポイント高くなっている。

年代別でみると、男性30歳代では満足派が41.8%で最も高く、不満派は25.4%で最も低い。

女性では20歳代から40歳代までは、年代が高くなるほど不満派が増加し、女性40歳代の59.8%をピークとし、50歳代を過ぎると不満派が徐々に減少している。男性においては20歳代を除くと、50歳代をピークとした同様の傾向がみられる。

## 【まとめ】

- 多くの市民は概ね静岡市での暮らしに満足しており、特に、「食生活」や「住生活」は満足度が高い。
- 全国調査と同様に、「所得・収入」や「資産・貯蓄」に関する不満感がある。年代別では特に若年層の不満感が高いものの、市全体としては県外出身者の満足度が比較的高い。
- 全国調査と比較しても、「レジャー・余暇生活」については不満感が高く、特に30代、40代の女性が不満を感じている。
- 問3で「心の豊かさを感じる時がいつか」という設問では、ゆったりと休養しているとき(56.8%)、家族団らんのとき(52.1%)、趣味やスポーツに熱中しているとき(49.9%)、友人や知人と雑談・会合しているとき(45.7%)と、なっており、仕事に打ち込んでいるとき(17.3%)は全国よりも12.3ポイント低い。

➡ 「所得や収入」、「資産・貯蓄」を良くしたいとの思いがあるものの、「レジャー・余暇生活」を充実させたいとの思いが強い。  
また、休養や家族や友人との時間、趣味やスポーツ等に心の豊かさを感じており、ワークライフバランスのとれた生活を求めていると読み取れる。

# 【概要】市民アンケート結果最終報告（市の施策について）

問4 静岡市の施策について、「A 現状への満足度」と「B 今後の重要度」別に、それぞれ「1 満足（重要）」から「5 不満（重要でない）」までのいずれかでお答えください。

## 【安全安心面の施策】

- ① 自然災害への事前対策（インフラ強化、施設の耐震化等の減災対策）
- ② 自然災害や火災等発生時の対応（初期活動、避難、災害復旧など）
- ③ 自然災害・感染症などに対する医療体制の充実
- ④ 通常時の医療体制の充実
- ⑤ 道路や上下水道、ごみ処理施設等の生活に欠かせない社会インフラの維持管理
- ⑥ 暴力や犯罪などからの安全対策

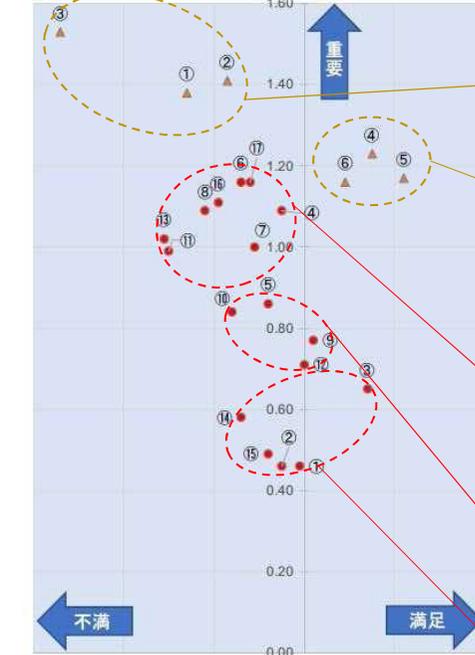
## 【くらし面の施策】

- ① 市民が芸術や文化に親しむ機会・施設の充実
- ② 市民がスポーツをする・観戦等で楽しむ機会・施設の充実
- ③ 生涯学習、社会教育施設（図書館等）の充実
- ④ 子育て支援施設（こども園等）、子育て支援策、義務教育の充実
- ⑤ 高等教育機関（大学・専門学校）の充実
- ⑥ 高齢者施設・サービス等の充実
- ⑦ 障がい者（児）施設・サービス等の充実
- ⑧ 子ども、高齢者、障がい者（児）を地域で見守る体制の構築
- ⑨ 快適な生活環境（住宅や景観等）の維持・充実
- ⑩ 公園や歩道空間など公共空間の充実
- ⑪ 公共交通機関や徒歩・自転車等で快適に移動できるまちづくり
- ⑫ 自動車で広域的に移動できる幹線道路の充実
- ⑬ 道路や施設のバリアフリー化推進
- ⑭ 年齢や性別、文化や言語の違いを超えて、活躍できる環境づくり
- ⑮ 地域コミュニティの充実
- ⑯ 地球温暖化対策・ごみの削減等による持続可能な社会の構築
- ⑰ 南アルプスや清流、駿河湾等の豊かな自然環境の維持

## 【活気・賑わい面の施策】

- ① 海外の国や地域・世界の人との交流促進
- ② 自然資源や歴史資源等を活かし、世界中から人を呼び込む取組
- ③ 文化芸術やスポーツを活かし、世界中から人を呼び込む取組
- ④ 大道芸W杯のようなイベントで世界中から人を呼び込む取組
- ⑤ 起業家や勤労者が能力を發揮できる環境づくり
- ⑥ 企業の支援や誘致等で雇用を維持・拡大する取組
- ⑦ 移住・定住を促進し、人口・活力を維持する取組
- ⑧ 中心市街地を活性化する取組
- ⑨ 歴史を活かしたまちづくり
- ⑩ 静岡市の歴史を市内外に発信し後世に繋ぐ取組
- ⑪ 海や港を生かしたまちづくり
- ⑫ 市域の約8割を占める中山間地域（オクシズ）の維持・振興
- ⑬ 1次産業（農林水産業）の競争力強化
- ⑭ 静岡ならではの特産品や地場産業のブランド化

## 【安全安心面の施策・くらし面の施策】



### 【安全安心面の施策】

・安全安心面の施策がすべての施策の中で、最も将来の重要度が高いと評価されている。  
 ・自然災害の事前対策や発災時の対応、災害や感染症流行時の救急医療体制等、**コロナや災害の激甚化もあり、不満かつ今後重要性が高いもの**と分類される。  
 ・通常の医療体制や生活に欠かすことが出来ないインフラ、暴力や犯罪からの安全対策は現状に満足しており、将来の重要性は高いと感じている。

### 【くらし面の施策】

・安全安心、活気賑わいと比較すると、満足度が中央値に寄っている。  
 ・**子育て、高齢者、障がい者等に関する福祉施策及び公共交通、道路のバリアフリー等の日常生活に必要不可欠なものの満足度が低い**が、**将来の重要性が高い**と感じている。また、南アルプスや駿河湾等の保全や地球温暖化対策等の環境面の施策も同様に重要と捉えている。  
 ・生活の利便性を向上させる、幹線道路や公園等の整備とともに高等教育機関の充実が今後の重要性の中心に位置し、幹線道路、住環境については概ね満足している。

## 【活気・賑わい面の施策】



### 【活気・賑わい面の施策】

・活気・賑わい面については、大道芸ワールドカップ等の世界中から人を呼び込む取組を除き、**安全安心面、くらし面の施策と比較し、満足度が低い**。  
 ・**経済活性化に資する施策が全体の中でも最も満足度が低く、将来の重要性が高いグループ**がとなっている。  
 ・また、中心市街地の活性化、移住定住の促進、企業支援や誘致はすべての施策の中でも低い満足度のある。  
 ・歴史や海洋、オクシズなどを活かしたのまちづくりについては、経済活性化施策に次いで重要性が高いと考えられており、なかでも海や港、中山間地といった自然資源を活かしたまちづくりに重要性を感じている。  
 ・世界中から人を呼び込む取組は、比較的満足度は高いものの、コロナの影響もあってか、将来の重要性は低くなっている。大道芸W杯の満足度が高いからかイベントで世界から人を呼び込む取組は高い満足度にある。

# 【概要】市民アンケート結果最終報告（行財政運営）

問5 厳しい財政状況のなか、これからも必要な行政サービスを維持していくための取組として、重視すべきことを、選択肢の中から優先順位の高いものを3つまで選び、番号でお答えください。



優先順位の1番目から3番目までを積み上げた結果（以降「積み上げ結果」とする）では、「積極的で分かりやすい行政情報の提供」が53.1%で最も高く、次いで「職員の意識改革、人材育成」が49.9%、「民間活力の活用」が42.9%となっている。

なお、積み上げ結果については、1番目から3番目までの延べ回答数を回答者数で割っているため、1番目から3番目の割合の合計と一致しないことがある。

積み上げ結果について性別でみると、男性では「職員の意識改革・職員の削減」が54.2%（女性では46.9%）で最も高く、女性では「積極的で分かりやすい行政情報の提供」が59.6%（男性では46.2%）で最も高かった。

積み上げ結果について年代別でみると、「民間活力の活用」は男性50歳代で59.4%、女性30歳代で57.3%と、他の年代では3～4割台となっている中で高くなっている。

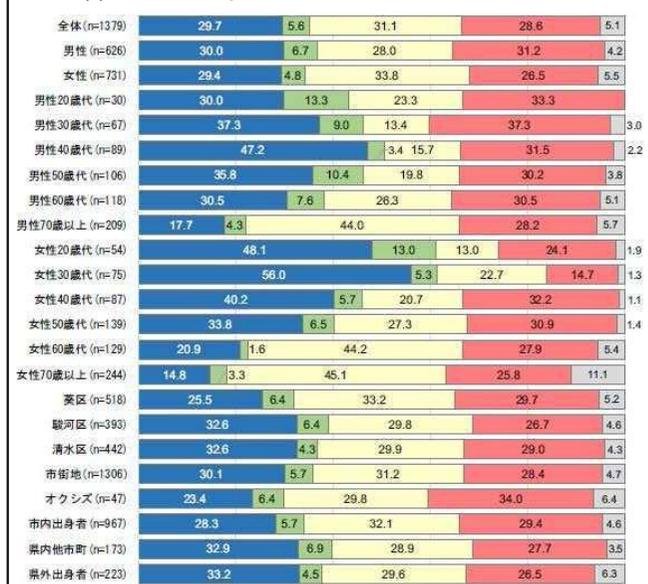
問6 市民負担と行政サービスのあり方についてどのようにお考えになりますか。あなたのお考えに最も近いものを1つお答えください。



- 行政サービスが充実するならば、市民の負担(税金・使用料など)が増えてもよい
- 行政サービスを受ける人の負担を増やすべきで、市民全体の負担を増やすべきでない
- 市民の負担が増えるのなら、現在の行政サービスを維持しなくてもよい
- 市民の自主的な活動や民間企業にまかせることで、行政サービスを減らし、市民の経済的負担を減らしてほしい
- いわゆるハコ物建設などの公共事業を減らし、他の行政サービスを充実させてほしい
- その他
- 無回答

全体では「いわゆるハコ物建設などの公共事業を減らし、他の行政サービスを充実させてほしい（以降『ハコ物以外を充実』とする）」が40.7%で最も高く、次いで「市民の自主的な活動や民間企業にまかせることで、行政サービスを減らし、市民の経済的負担を減らしてほしい（以降『市民や民間にまかせる』）」が25.7%となっている。性・年代別でみると、女性20歳代と女性30歳代では「市民や民間にまかせる」がトップとなっている。また、男性20・30歳代では「行政サービスを受ける人の負担を増やすべきで、市民全体の負担を増やすべきでない」が2割以上と、他の年代より高い。「ハコ物以外を充実」は、男女とも年代を追うごとに割合が増えていく傾向にある（女性70歳以上を除く）。エリア別でみると、オクシズでは「市民や民間にまかせる」が46.8%と、市街地（25.1%）の倍近い割合となっている。

問7 デジタル技術を活用した行政サービスの提供では、どのような視点が重要だと考えますか。1つだけお答えください。



- 行政手続きのオンライン化等の利便性向上
- 公共施設や公共料金等の電子決済化
- 様々なサービスの情報の効率的な提供
- デジタル技術を活用した業務の効率化
- 無回答

全体では「様々なサービスの情報の効率的な提供（以降『情報の提供』とする）」が31.1%、「行政手続きのオンライン化等の利便性向上（同『行政手続きの利便性』）」が29.7%、「デジタル技術を活用した業務の効率化（同『業務の効率化』）」が28.6%と、「公共施設や公共料金等の電子決済化（5.6%）」を除く3項目でほぼ等分されている。

性・年代別でみると、女性20・30歳代を除く各年代では「業務の効率化」が3割前後で一定の割合となっているが、「行政手続きの利便性」と「情報の提供」は年代によって偏りがある。「情報の提供」は男性では50歳代以下、女性では40歳代以下で1～2割と低いが、男性60歳代以上と、女性50歳代以上では、年代を追うごとに増加している。「行政手続きの利便性」は男性では40歳代の47.2%をピークに、女性では30歳代の56.0%をピークに、それぞれ年代を追うごとに低くなっている。

# 静岡市総合計画策定に向けた市民意識調査

---

令和3年12月

静岡市

# 目次

<b>I</b>	<b>調査概要</b>	<b>1</b>
<b>II</b>	<b>調査結果</b>	<b>2</b>
1)	現在の生活と今後の生活への意識	4
	（1）現在の生活満足度	4
	（2）今後の生活で充実させたいこと	26
	（3）心の豊かさを感じる時	29
2)	静岡市の施策の評価	32
	（1）静岡市の施策について	32
3)	今後の行政サービスのあり方	36
	（1）行政サービスの維持における重視点	36
	（2）市民負担と行政サービスのあり方	38
	（3）デジタル技術を活用した行政サービスの提供における重視点	40



# I 調査概要

## 1 調査目的

目指すべきまちの将来像と、その実現に向けた取組方針を示す「静岡市総合計画」策定のため、市民の生活に対する意識や行政の取組みに対する考えなどを掌握し、今後の行運営に反映することを目的としている。

## 2 調査内容

- 1) 現在の生活と今後の生活への意識
- 2) 静岡市の施策の評価
- 3) 今後の行政サービスのあり方

## 3 調査方法

- 1) 調査対象 18歳以上の市民
- 2) 標本数 3,000人
- 3) 抽出方法 住民基本台帳から18歳以上の市民を無作為抽出
- 4) 調査方法 郵送調査・自記式アンケート
- 5) 調査期間 令和3年9月17日(金)～令和3年10月15日(金)

## 4 回収率

配布数	有効回収数	有効回収率
3,000票	1,379票	46.0%

## 5 報告書を読むにあたり

- 1) 結果は百分率で表示し、小数点第2位を四捨五入している。このため百分率の合計が100%にならないことがある。
- 2) 数値やグラフ中の「n」は回答者総数を示し、回答比率はこれを100%として算出している。
- 3) 複数回答をしてもよい設問では、百分率の合計が100%を超える場合がある。

## 調査結果

# II 調査結果

### 回答者属性

#### F 1 性別

	回答数	男性	女性	その他	回答しない	無回答
合計	1379	626 45.4%	731 53.0%	2 0.1%	10 0.7%	10 0.7%

上段：実数

下段：%

#### F 2 年代

	回答数	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
合計	1379	7 0.5%	86 6.2%	143 10.4%	180 13.1%	247 17.9%	250 18.1%	457 33.1%	9 0.7%

#### F 3 職業

	回答数	ト勤め人（パート含む）	自営業	農林水産業	夫専業主婦・主	学生	無職	その他	無回答
合計	1379	647 46.9%	110 8.0%	21 1.5%	183 13.3%	24 1.7%	361 26.2%	15 1.1%	18 1.3%

#### F 4 出身地

	回答数	静岡市出身	の静岡市内出身	県外出身	無回答
合計	1379	967 70.1%	173 12.5%	223 16.2%	16 1.2%

#### F 5 居住区

	回答数	葵区	駿河区	清水区	無回答
合計	1379	518 37.6%	393 28.5%	442 32.1%	26 1.9%

## F 6 世帯構成

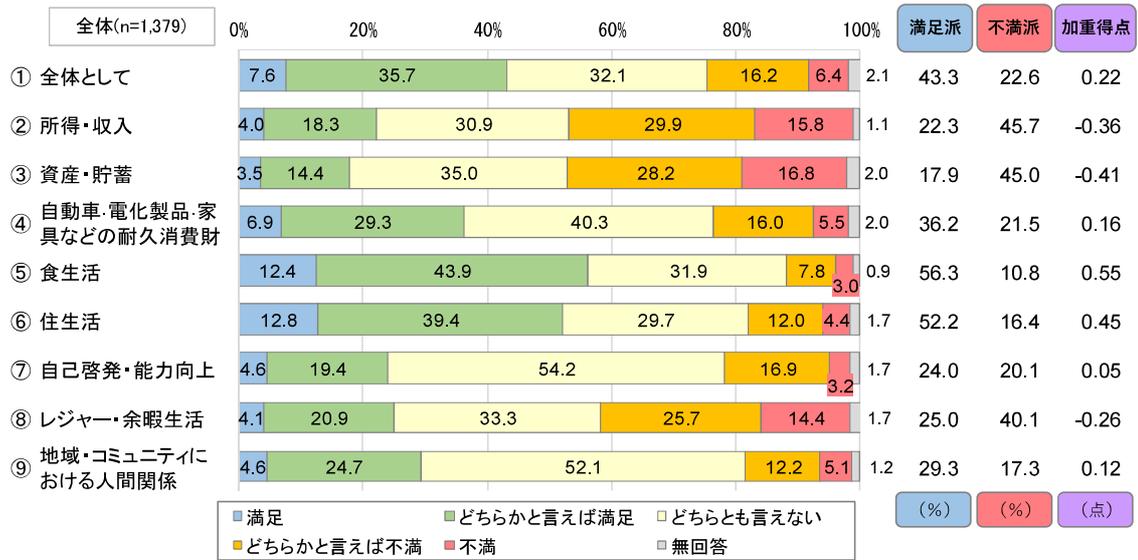
	回答数	一人暮らし	夫婦のみ	二世子代にわたる	親三世孫にわたる	その他	無回答
合計	1379	165 12.0%	344 24.9%	673 48.8%	140 10.2%	42 3.0%	15 1.1%

## 調査結果

### 1) 現在の生活と今後の生活への意識

#### (1) 現在の生活満足度

問1 あなたは、現在の生活にどの程度満足しているか率直にお答えください。お答えは、①～⑨のことがらについて、それぞれ「1満足」から「5不満」までのいずれかでお答えください。



※「満足」と「どちらかと言えば満足」を合わせた“満足派”の割合と、「不満」と「どちらかと言えば不満」を合わせた“不満派”の割合、また、「満足」を+2点、「どちらかと言えば満足」を+1点、「どちらでもない」を0点、「どちらかと言えば不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重得点を、グラフの右側に記載している。加重得点は満足度が高いほど数値が高くなる（計算式は後述）。

全体(n=1,379)について、「①全体として」は満足派が43.3%、不満派が22.6%、加重得点は0.22点と、満足派が多くなっている。

「②所得・収入」から「⑨地域・コミュニティにおける人間関係（以下『⑨地域の人間関係』とする）」までの各項目では、「⑤食生活」で満足派が56.3%と、9項目中最も多い。2番目は「⑥住生活」で満足派が52.2%と、過半数となっている。

逆に「②所得・収入」は不満派が45.7%で、9項目中最も多い。「③資産・貯蓄」も不満派が45.0%と多く、加重得点は-0.41点と、9項目中最も低かった。

満足派が高い順に並べると、1位「⑤食生活」、2位「⑥住生活」、3位「①全体として」、4位「④自動車・電化製品・家具などの耐久消費財」、5位「⑨地域の人間関係」、6位「⑧レジャー・余暇生活」、7位「⑦自己啓発・能力向上」、8位「②所得・収入」、9位「③資産・貯蓄」となっている。

## 調査結果

すべての項目と属性別の評価を一覧としてみるため、下記計算で、加重得点を算出した。

$$\text{加重得点} = (\text{「満足」} \times 2 \text{点} + \text{「どちらかと言えば満足」} \times 1 \text{点} - \text{「どちらかと言えば不満」} \times 1 \text{点} - \text{「不満」} \times 2 \text{点}) \div (\text{回答数} - \text{無回答})$$

加重得点一覧

	回答数	① 全体として	② 所得・収入	③ 資産・貯蓄	④ 耐久消費財 自動車・電化製品の製	⑤ 食生活	⑥ 住生活	⑦ 自己啓発・能力	⑧ レジャー・余暇生活	⑨ 地域関係・コミュニケーション	
合計	1379	0.22点	-0.36点	-0.41点	0.16点	0.55点	0.45点	0.05点	-0.26点	0.12点	
性別	男性	626	0.21点	-0.38点	-0.44点	0.23点	0.58点	0.48点	0.16点	-0.11点	0.13点
	女性	731	0.24点	-0.32点	-0.38点	0.12点	0.54点	0.43点	-0.03点	-0.37点	0.11点
男性年代	10歳代	5	1.00点	0.20点	-0.40点	-0.20点	0.80点	1.40点	0.40点	0.00点	0.20点
	20歳代	30	0.17点	-0.53点	-0.67点	0.17点	0.63点	0.63点	-0.17点	-0.27点	0.03点
	30歳代	67	0.33点	-0.51点	-0.75点	0.19点	0.78点	0.51点	0.42点	0.16点	0.16点
	40歳代	89	-0.02点	-0.53点	-0.65点	0.15点	0.49点	0.33点	0.20点	-0.32点	0.13点
	50歳代	106	0.20点	-0.34点	-0.48点	0.27点	0.61点	0.37点	0.03点	-0.34点	0.09点
	60歳代	118	0.29点	-0.28点	-0.41点	0.21点	0.54点	0.44点	0.16点	-0.03点	0.08点
	70歳以上	209	0.25点	-0.34点	-0.21点	0.28点	0.56点	0.59点	0.18点	-0.01点	0.20点
女性年代	10歳代	2	0.50点	-0.50点	-1.00点	1.00点	1.00点	1.00点	-0.50点	-0.50点	0.00点
	20歳代	54	0.57点	-0.15点	-0.20点	0.31点	0.91点	0.72点	0.26点	-0.20点	0.09点
	30歳代	75	0.24点	-0.36点	-0.60点	0.21点	0.53点	0.31点	-0.03点	-0.56点	0.20点
	40歳代	87	0.29点	-0.36点	-0.47点	0.07点	0.52点	0.41点	-0.08点	-0.66点	-0.13点
	50歳代	139	0.09点	-0.39点	-0.54点	0.01点	0.45点	0.25点	-0.08点	-0.43点	-0.03点
	60歳代	129	0.19点	-0.39点	-0.33点	0.09点	0.47点	0.28点	-0.09点	-0.38点	0.12点
	70歳以上	244	0.25点	-0.26点	-0.25点	0.15点	0.55点	0.60点	0.00点	-0.21点	0.23点
行政区	葵区	518	0.26点	-0.34点	-0.40点	0.18点	0.56点	0.52点	0.06点	-0.25点	0.14点
	駿河区	393	0.28点	-0.33点	-0.40点	0.16点	0.57点	0.40点	0.03点	-0.28点	0.07点
	清水区	442	0.15点	-0.38点	-0.44点	0.15点	0.55点	0.43点	0.08点	-0.24点	0.11点
地域	市街地	1306	0.22点	-0.35点	-0.42点	0.15点	0.55点	0.45点	0.06点	-0.26点	0.10点
	オクシズ	47	0.57点	-0.22点	-0.27点	0.58点	0.80点	0.73点	0.09点	-0.02点	0.37点
出身地	市内出身者	967	0.19点	-0.41点	-0.41点	0.14点	0.54点	0.45点	0.04点	-0.25点	0.11点
	県内他市町	173	0.31点	-0.33点	-0.45点	0.19点	0.59点	0.51点	0.04点	-0.23点	0.15点
	県外出身者	223	0.32点	-0.11点	-0.38点	0.24点	0.61点	0.44点	0.14点	-0.27点	0.13点

上記の表においては、得点の高いもの（満足度が高い）ほど青く、低いもの（満足度が低い）ほど赤く塗り分けられている。（中間値は百分位によるため、0.00点は無色にならない。）

なお、回答者数の少ない男女10代については本報告書では考察を省略する。

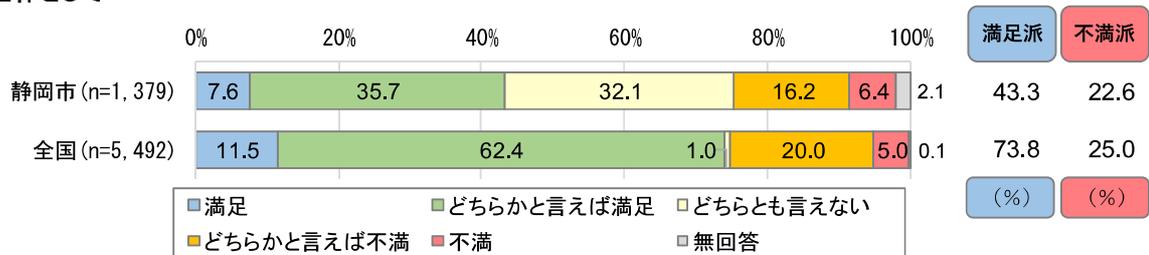
「②所得・収入」と「③資産・貯蓄」は性年代、エリアを問わず満足度が低く、「⑧レジャー・余暇生活」は男性よりも女性で満足度が低く、特に女性30歳代～40歳代で低くなっている。

## 調査結果

### ※全国との比較（令和元年度国民生活に関する世論調査～内閣府実施）

令和元年6月に内閣府が実施した“国民生活に関する世論調査”（以下「全国調査」とする）と当調査の「①全体として」を比較すると、「どちらとも言えない」が静岡市の結果では高くなっている。参考程度に満足派と不満派の割合をみると、満足派は全国で高く、不満派は静岡市で僅差ながら低くなっている。

#### ①全体として

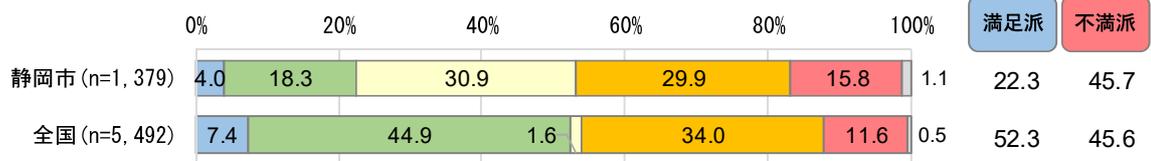


以下、「②所得・収入」から「⑧レジャー・余暇生活」まで同様に比較しているが、いずれも「どちらとも言えない」が静岡市で高いため、参考程度となるが、全般的に満足派は全国で高く、不満派も全国でやや高いか、静岡市と同等といった傾向が見られる。

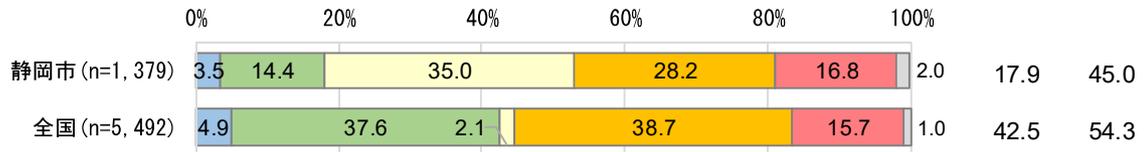
なお「⑧レジャー・余暇生活」については、満足派が全国で62.7%と高く（静岡市25.0%）、不満派が静岡市で40.1%と高くなっており（全国33.5%）、静岡市では全国より不満が高いことがうかがえる。

※「⑨地域の人間関係」は静岡市だけの項目であるため省略した。

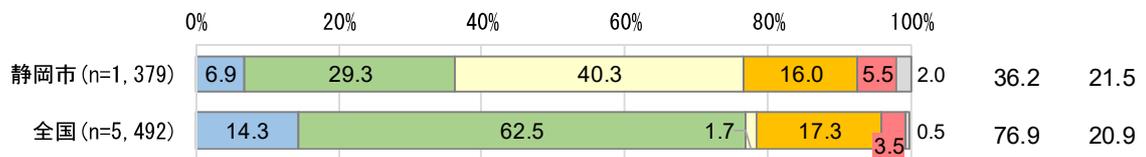
②所得・収入



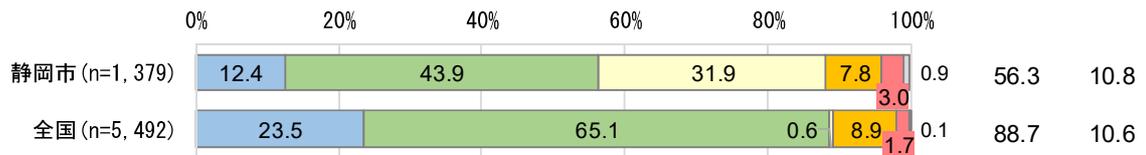
③資産・貯蓄



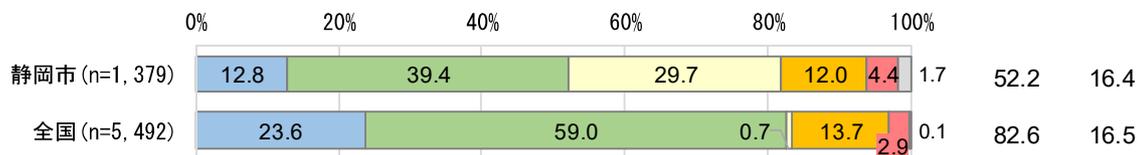
④自動車・電気製品・家具などの耐久消費財



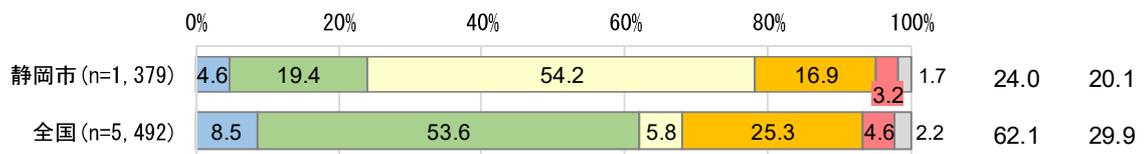
⑤食生活



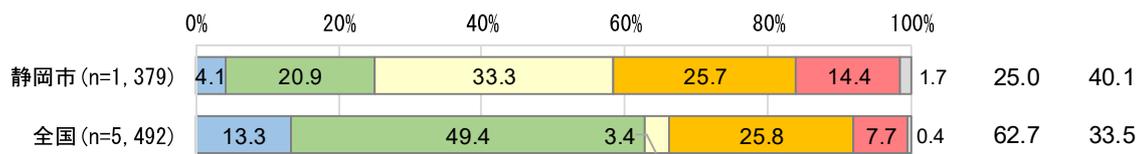
⑥住生活



⑦自己啓発・能力向上



⑧レジャー・余暇生活



■ 満足      ■ どちらかと言えば満足      ■ どちらとも言えない  
■ どちらかと言えば不満      ■ 不満      ■ 無回答

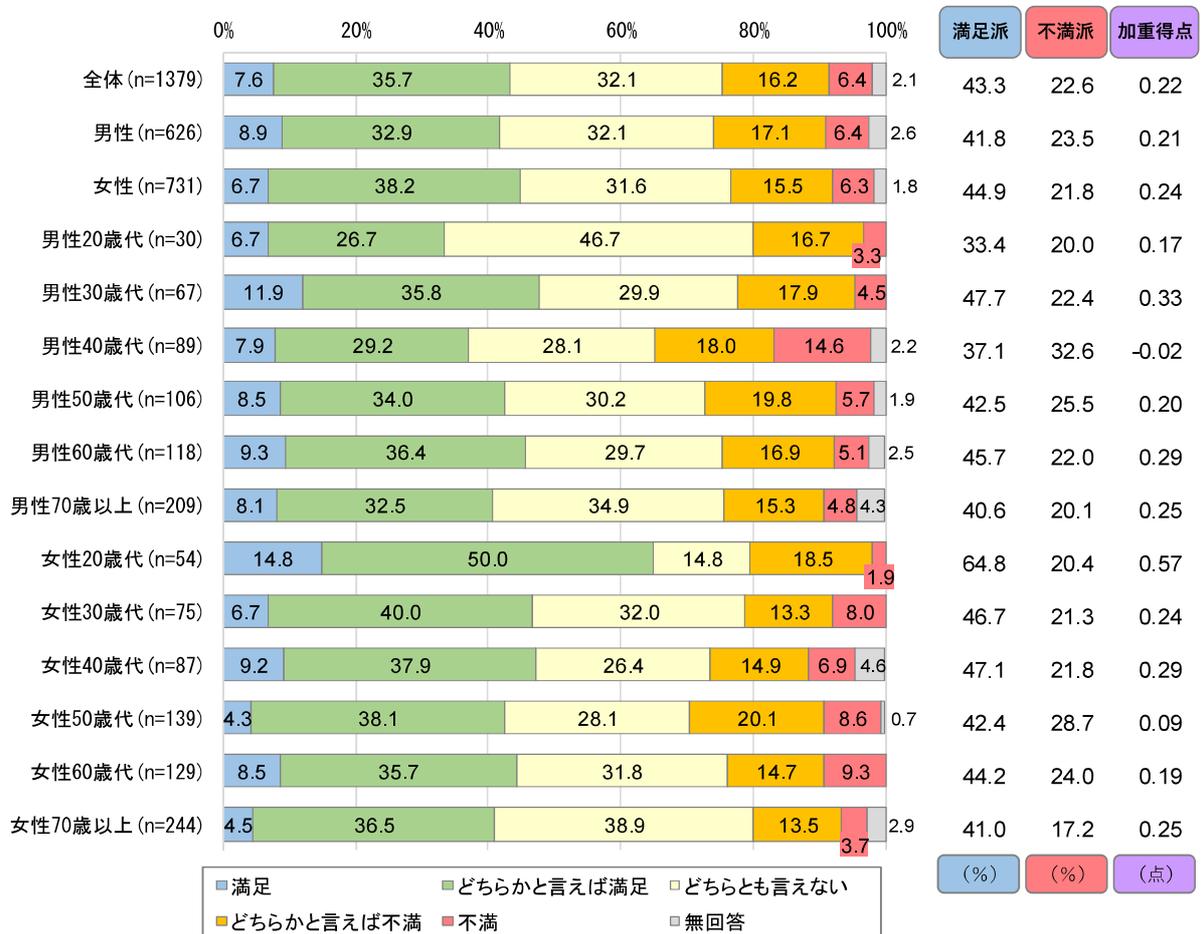
(%) (%)

## 調査結果

以下、項目ごとに【性・年代別】および【エリア別】で分析している。回答者数の少ない男女10代についてはグラフを省略したが、調査母数には含まれている。

### ①全体として

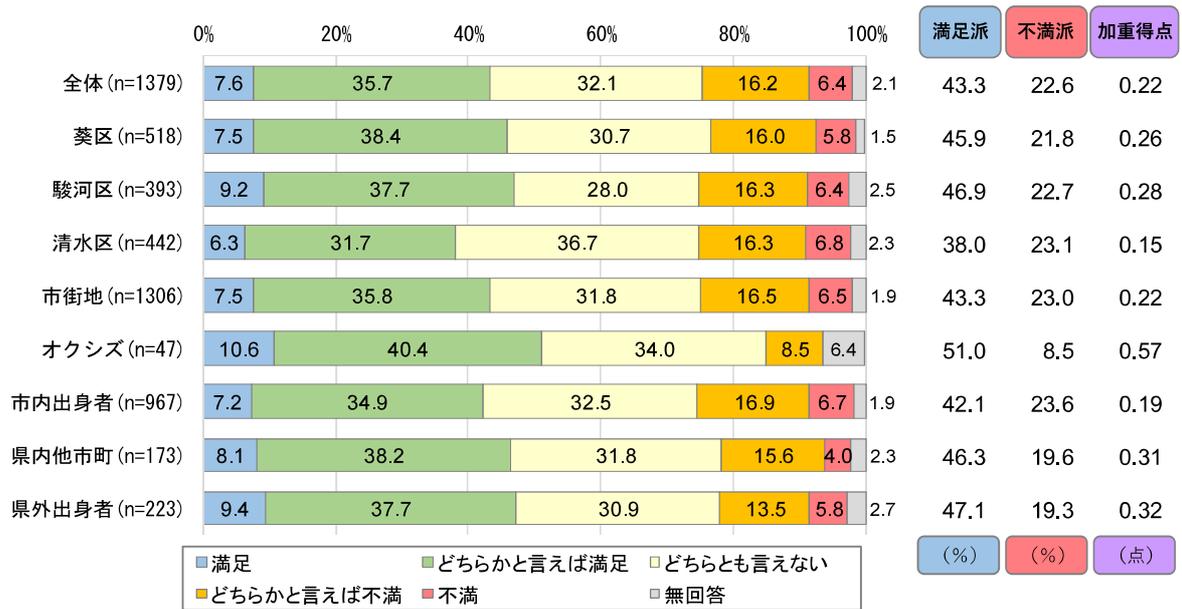
#### 【性・年代別】



性別でみると、満足派、不満派および加重得点について男女間で大きな差はない。

年代別でみると、女性20歳代で満足派が64.8%で最も高い。一方で男性20歳代と男性40歳代では満足派が30%台と低い。特に男性40歳代は不満派が32.6%で最も高くなっており、加重得点も唯一マイナスとなっている。

【エリア別】



行政区別で見ると、葵区と駿河区は全体と大きな差はないが、清水区では満足派が 30%台と低く、加重得点も 0.15 点と最も低い。

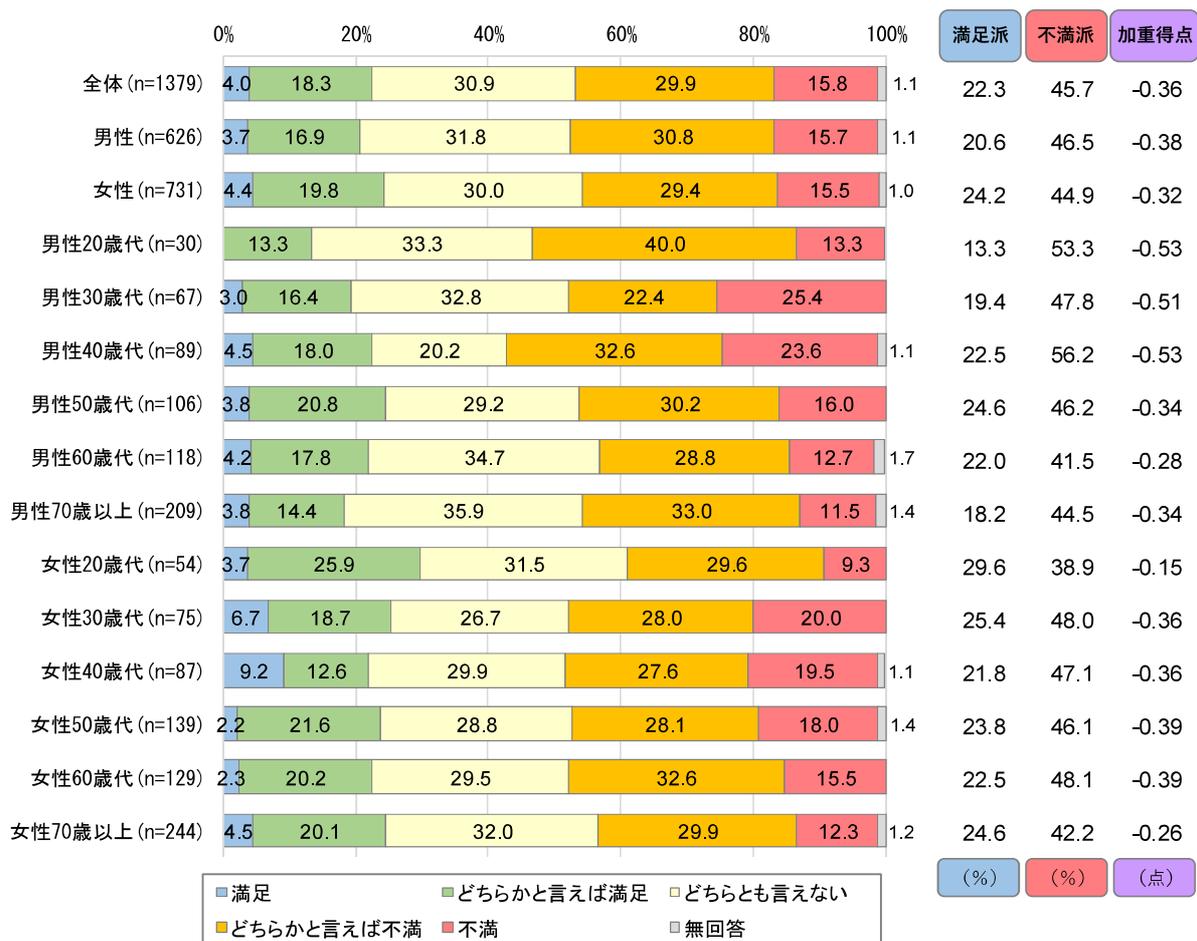
地域別で見ると、オクシズは市街地よりも満足派が高くなっている。

出身地別で見ると、県内他市町出身者と県外出身者に比べて市内出身者は満足派が低く、加重得点では県内他市町が 0.31 点、県外出身者が 0.32 点に対し、市内出身者は 0.19 点と低くなっている。

## 調査結果

### ②所得・収入

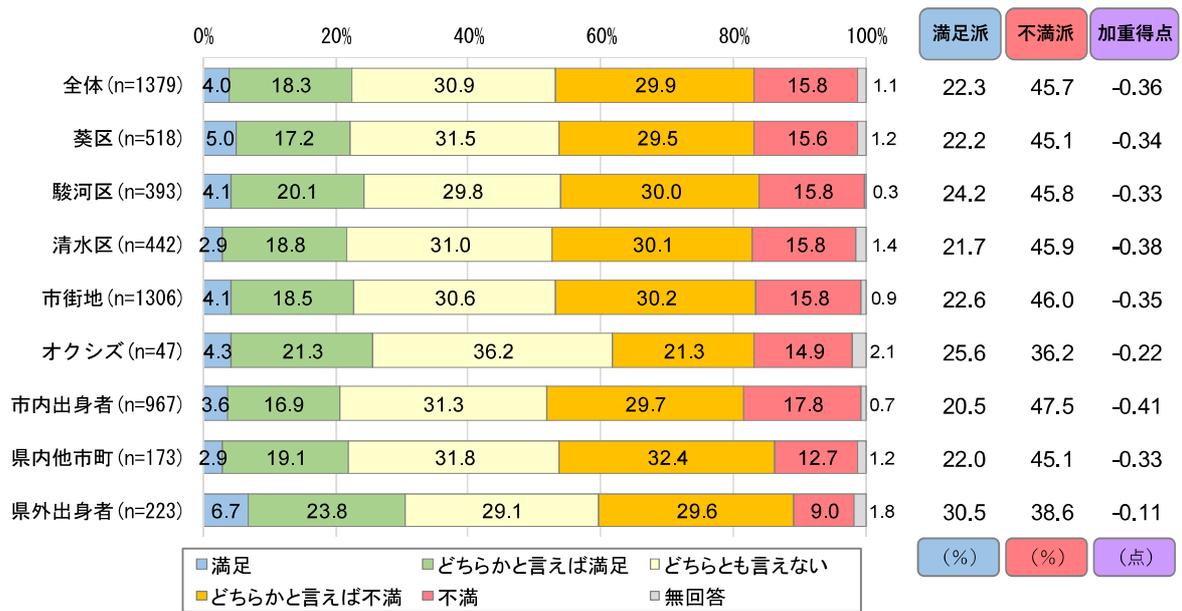
#### 【性・年代別】



所得・収入について性別で見ると、男女間で大きな差はない。

年代別で見ると、男性20・30歳代と男性70歳以上で満足派が10%台と低い。また、いずれの年代でも不満派が満足派を上回り、加重得点はすべての性・年代でマイナスとなっている。

【エリア別】



行政区別では、特に大きな差は見られない。

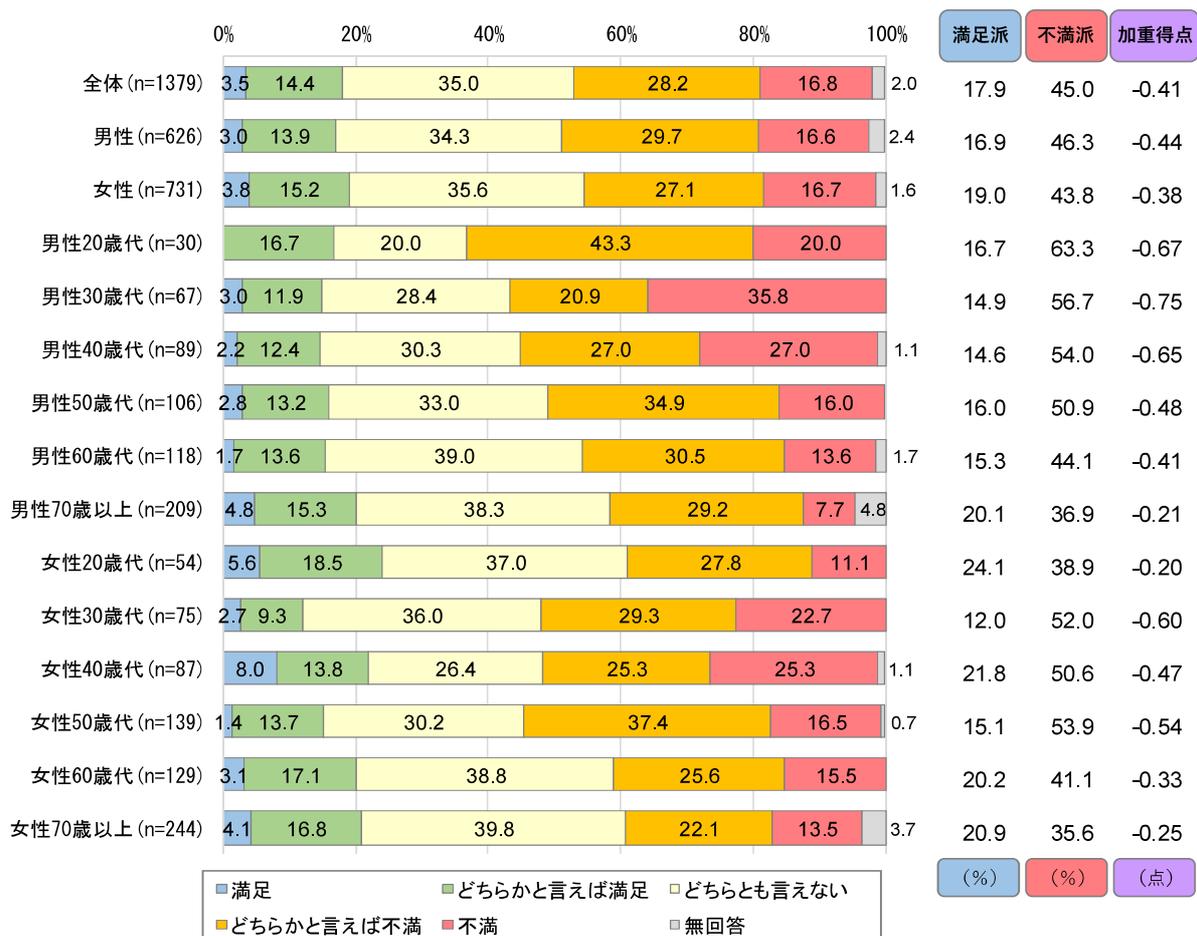
市街地と比べると、オクシズではやや不満派が少なくなっている。

市内出身者と県内他市町出身者では大きな差は見られないが、県外出身者は満足派がやや多く、加重得点はマイナス数値ながら最も高い-0.11点となっている。

## 調査結果

### ③資産・貯蓄

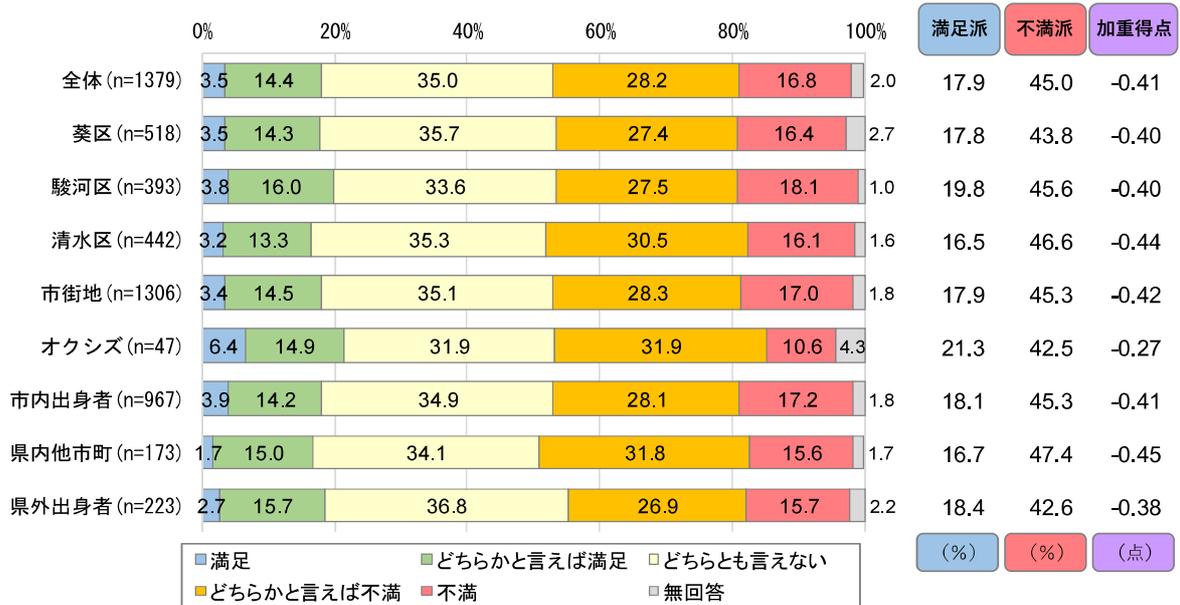
#### 【性・年代別】



全体では満足派が17.9%に対し不満派が45.0%と高く、加重得点は-0.41点となっている。性別で見ると、男女間での差は、女性で満足派がやや多く、男性で不満派がやや多くなっている。

年代別で見ると、男性20歳代から男性70歳以上までは、年代が高くなるほど不満派が少なくなっている。女性では女性30歳～50歳代で、不満派が50%台と高くなっている。

【エリア別】

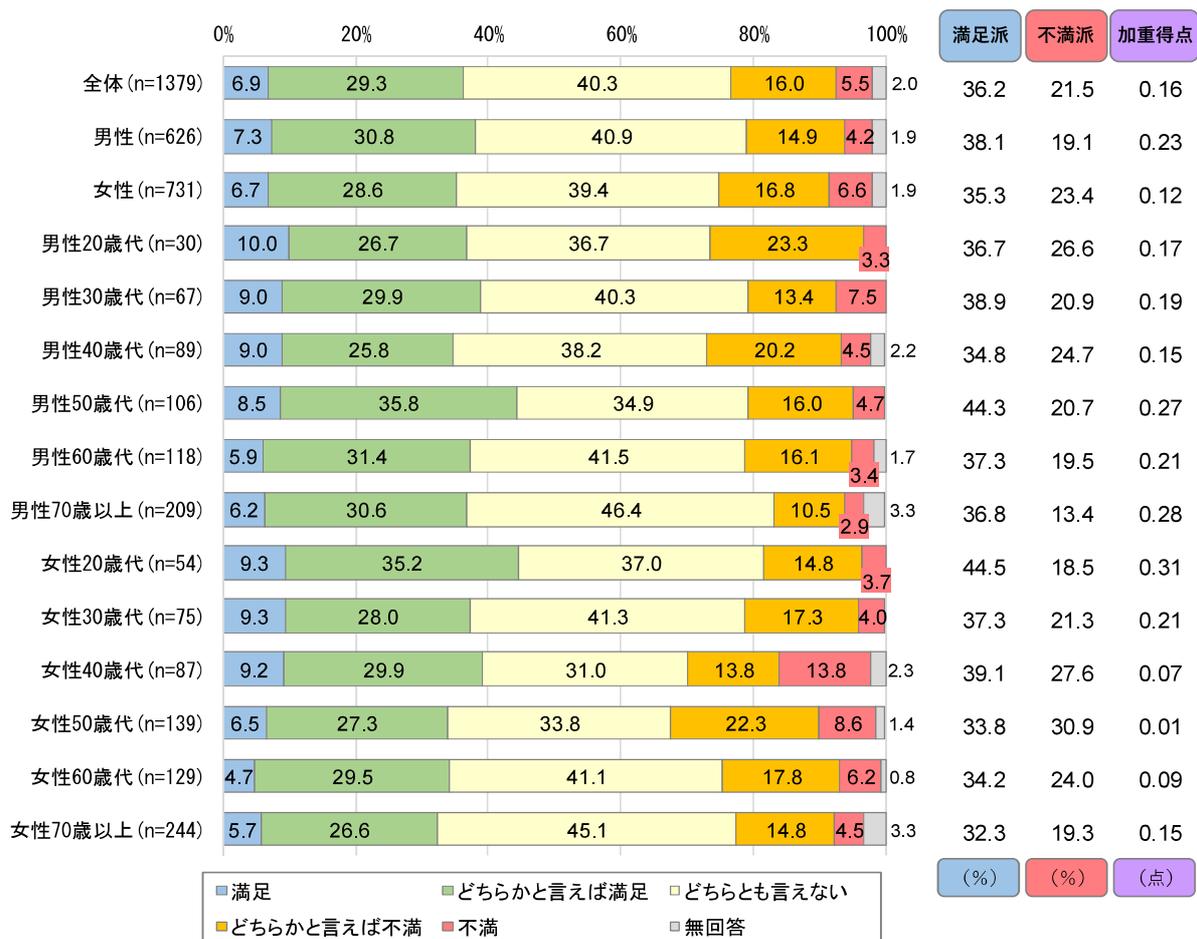


エリア別では、特に大きな差は見られない。

## 調査結果

### ④自動車・電化製品・家具などの耐久消費財

#### 【性・年代別】

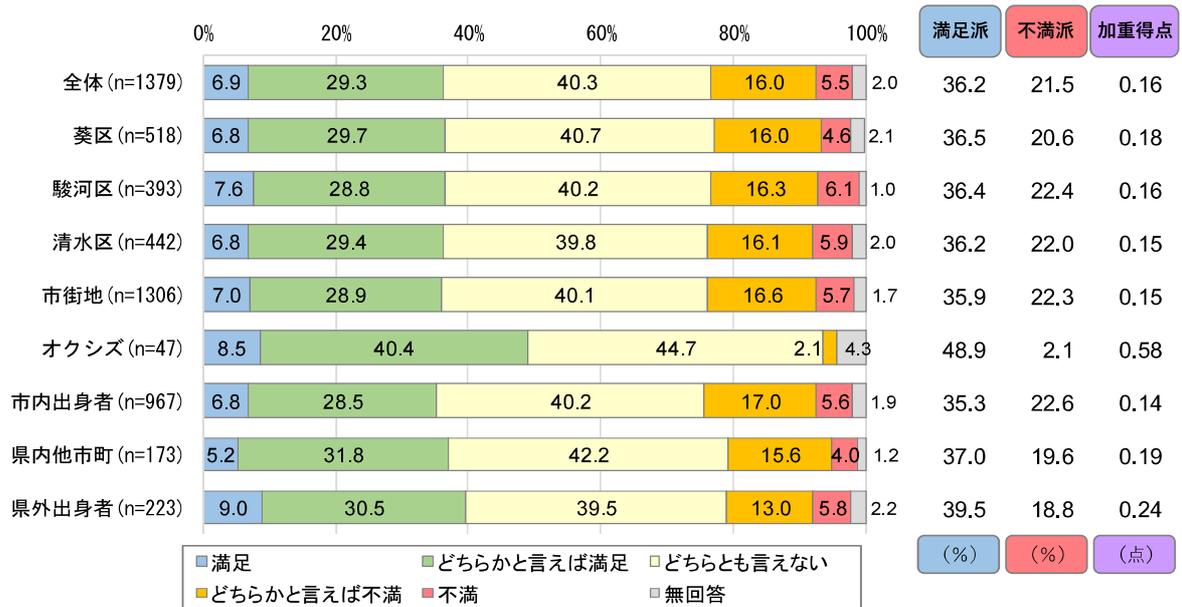


全体では満足派が 36.2%、不満派が 21.5%、加重得点は 0.16 点と、満足派が不満派より多くなっている。

性別で見ると、男性のほうが女性より満足派がやや多く、加重得点が高くなっている。

年代別で見ると、女性 20 歳代で満足派が 44.5% で最も多く、加重得点は 0.31 点、次いで男性 50 歳代で満足派が 44.3%、加重得点が 0.27 点となっている。

【エリア別】

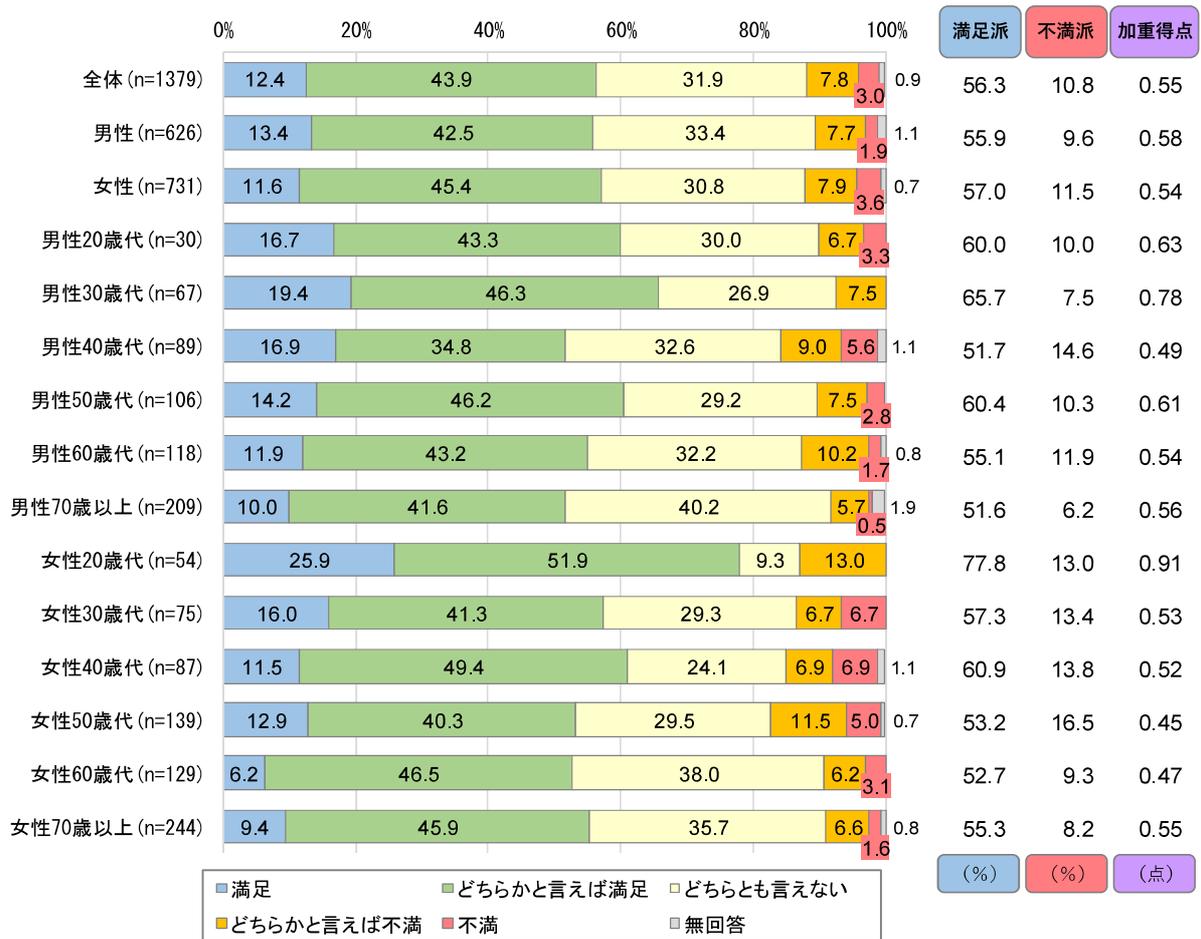


エリア別で見ると、オクシズで満足派が 48.9%と高く、また不満派は 2.1%と極めて低くなっている。

## 調査結果

### ⑤食生活

#### 【性・年代別】

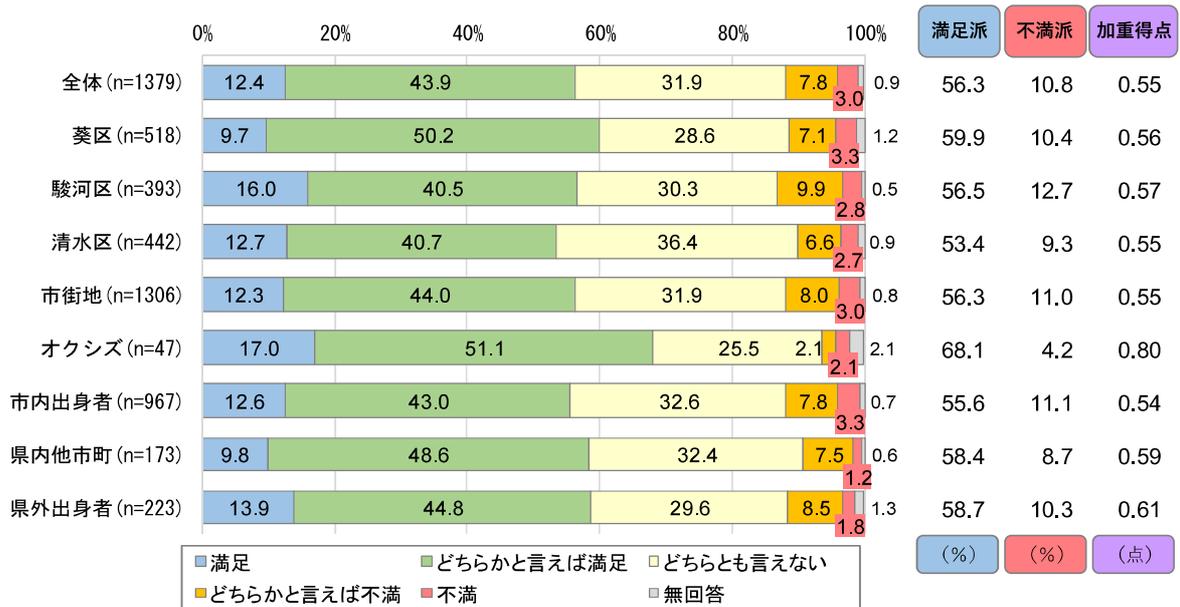


食生活については全体で満足派が 56.3%、不満派は 10.8%、加重得点は 0.55 点と、満足派が過半数となっている。

性別で見ると、男女間で大きな差はなく、満足派が 50% 台後半、不満派は 10% 前後となっている。

年代別で見ると、女性 20 歳代で満足派が 77.8% と特に高くなっている。

【エリア別】



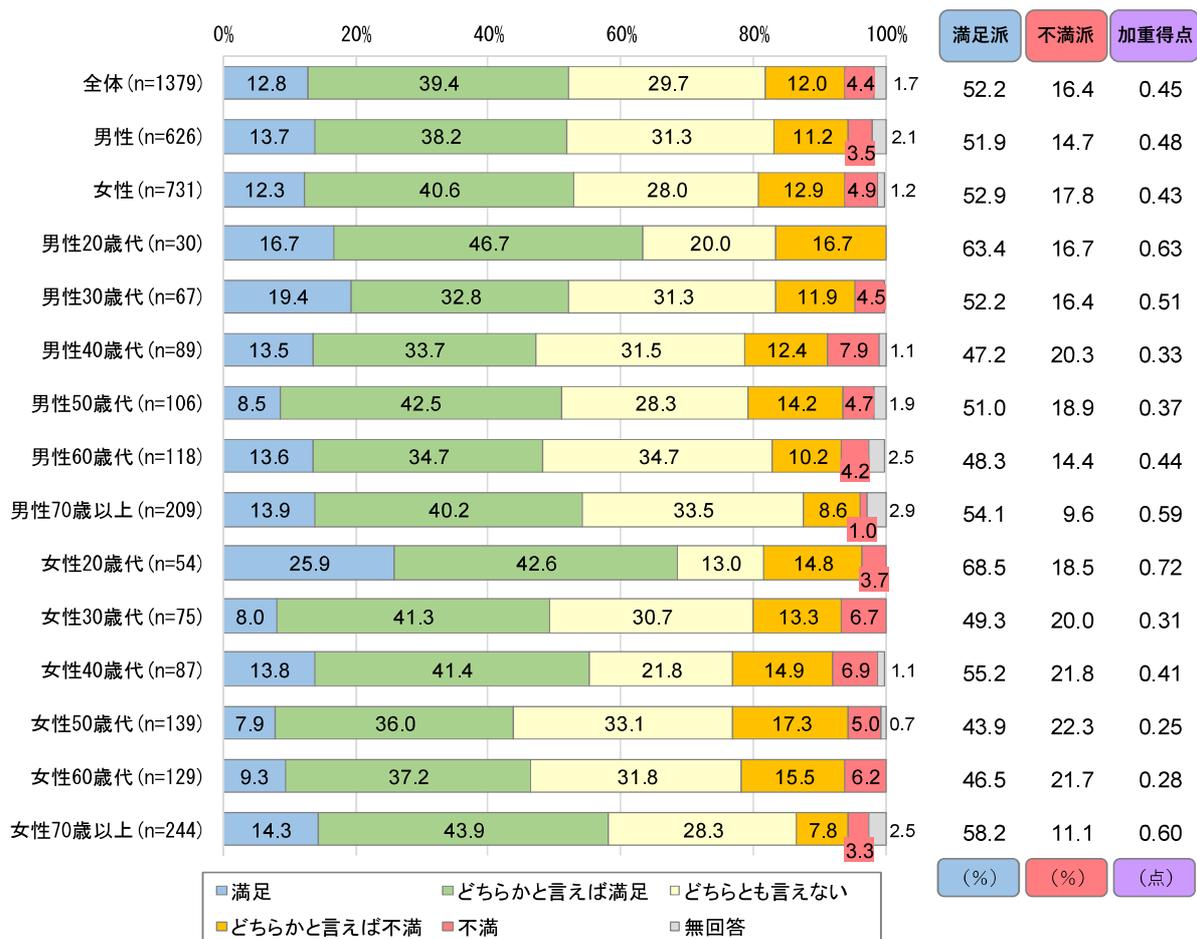
行政区で見ると、満足派の割合は葵区（59.9%）＞駿河区（56.5%）＞清水区（53.4%）の順でやや低くなっている。

市街地に比べ、オクシズでは満足派の割合が高くなっている。

## 調査結果

### ⑥住生活

#### 【性・年代別】

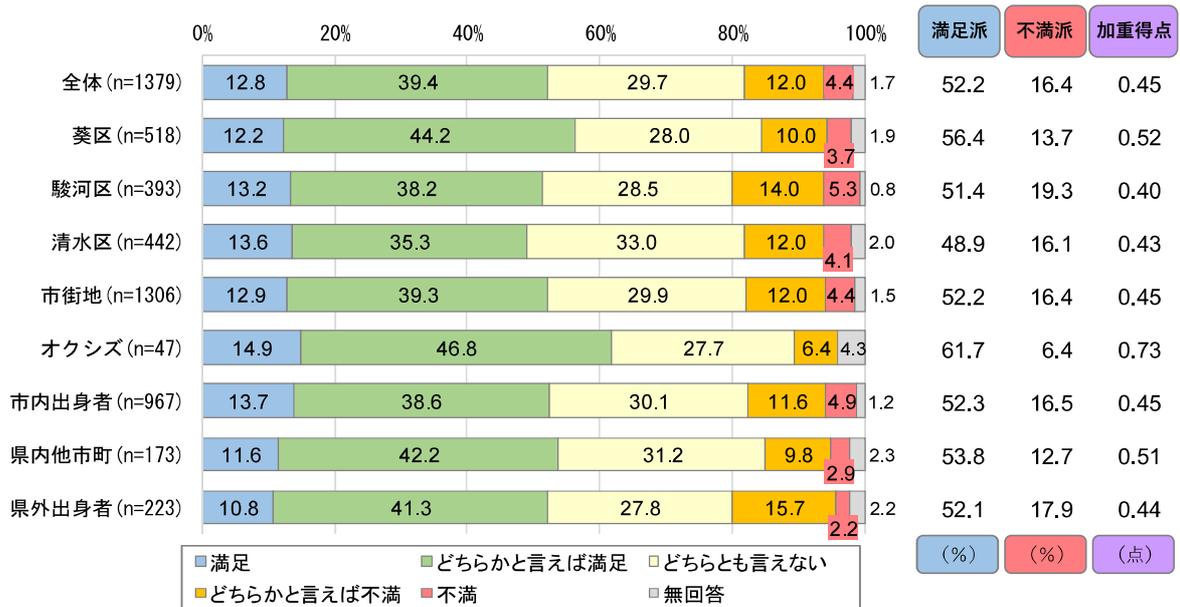


住生活について、全体では満足派が 52.2%と過半数、不満派は 16.4%、加重得点は 0.45 点となっている。

性別でみると、特に男女間での差は見られない。

年代別でみると、男女とも 20 歳代で満足派が多く、どちらも 6 割台となっている。また、男女とも 70 歳代で不満派の割合が低く、どちらも 10%前後となっている。

【エリア別】



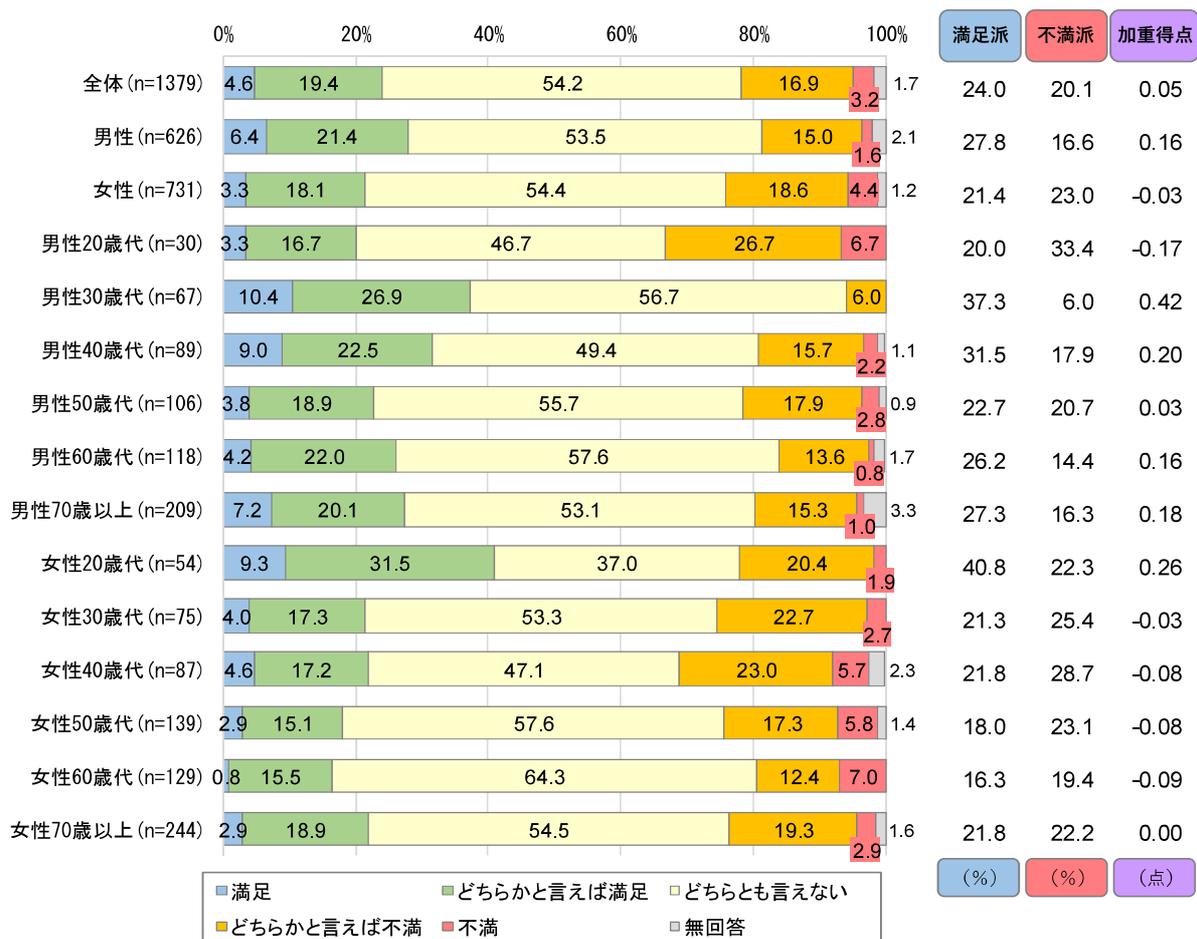
行政区で見ると、満足派は葵区（56.4%）＞駿河区（51.4%）＞清水区（48.9%）の順で低くなっている。

市街地とオクシズとでは、市街地の満足派は52.2%に対しオクシズは61.7%で、加重得点でもオクシズは0.73点と高くなっている。

## 調査結果

### ⑦自己啓発・能力向上

#### 【性・年代別】

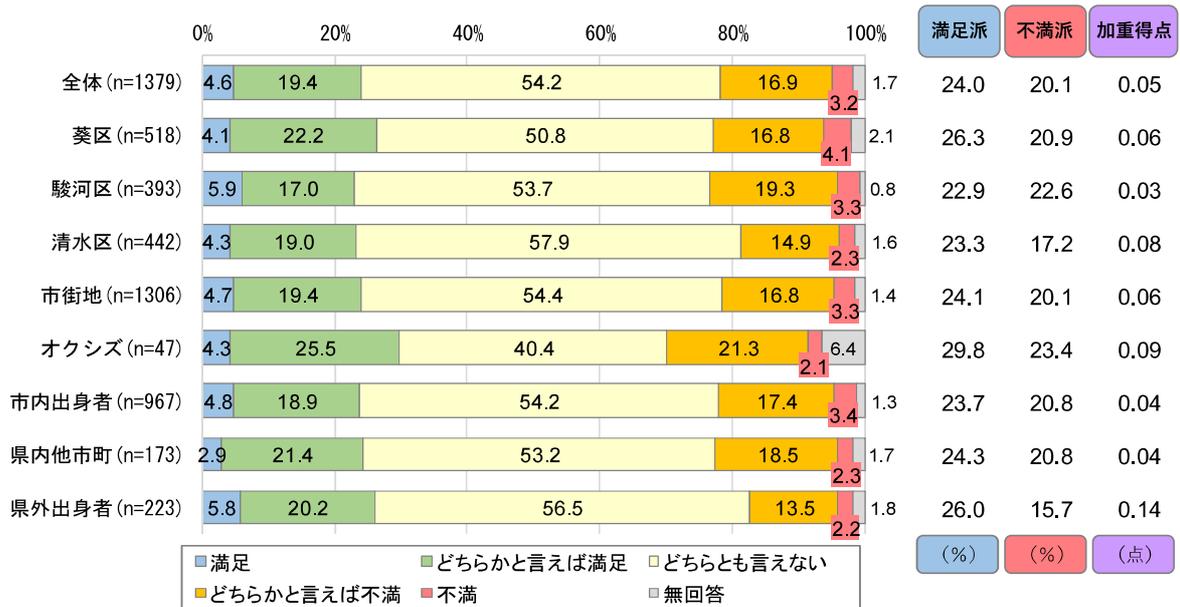


自己啓発・能力向上について、全体では満足派が24.0%と、「③資産・貯蓄」「②所得・収入」に次いで低くなっている。一方で不満派は20.1%と、高いほうから数えて6番目で、「どちらとも言えない」が54.2%で過半数となっている。

性別でみると、男性の満足派は27.8%に対し女性は21.4%と、男性のほうが高くなっている。また、男性では満足派が不満派を上回っているが、女性では不満派が満足派を上回り、女性では加重得点がマイナスとなっている。

年代別でみると、30歳代以上では男性の満足派は不満派を上回り、女性は不満派が満足派を上回っている。ただし、男女とも20歳代では逆転していて、男性20歳代では満足派が低く、女性20歳代では満足派が高くなっている。

【エリア別】

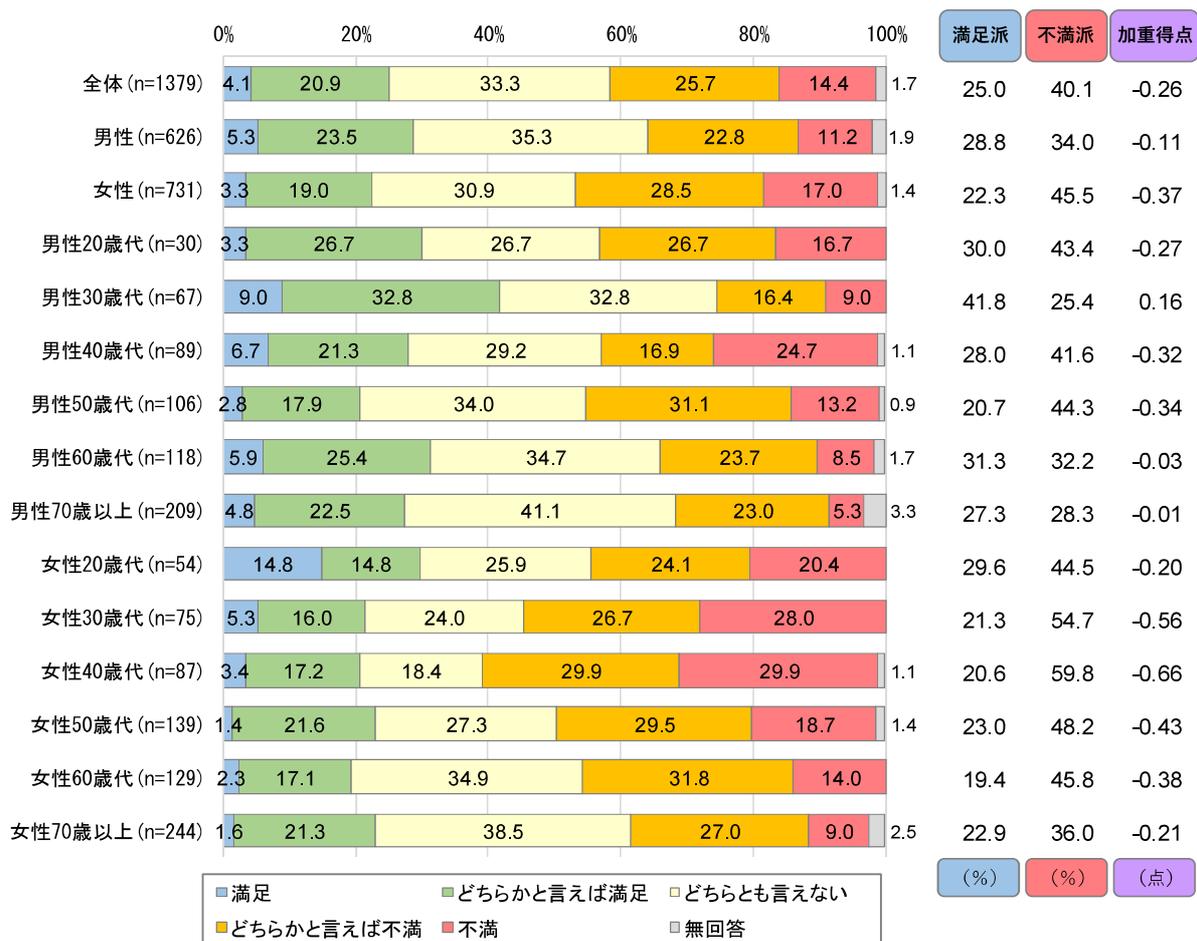


エリア別でみると、オクシズで満足派と不満派の割合が、いずれもやや高くなっているものの、加重得点は他と差がなく、地域的な差異はないと言える。

## 調査結果

### ⑧レジャー・余暇生活

#### 【性・年代別】

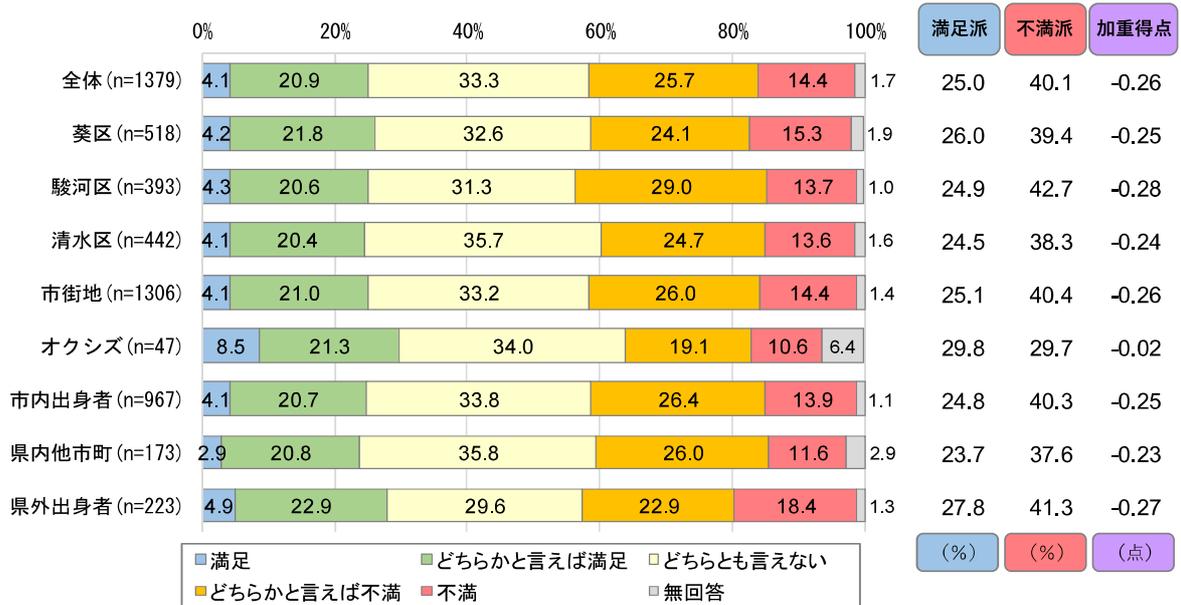


レジャー・余暇生活について、全体では満足派が 25.0%、不満派が 40.1%、加重得点は-0.26 点と、不満派が多くなっている。

性別で見ると、男性の満足派は 28.8%、不満派は 34.0%、加重得点は-0.11 点となっている。女性では満足派が 22.3%、不満派が 45.5%、加重得点は-0.37 点と、特に不満派の割合が男性より 11.5 ポイント高くなっている。

年代別で見ると、男性 30 歳代では満足派が 41.8%で最も高く、不満派は 25.4%で最も低い。男性 30 歳代でのみ、加重得点がプラスとなっている。また、女性では 20 歳代から 40 歳代までは、年代が高くなるほど不満派が増加し、女性 40 歳代の 59.8%をピークとし、50 歳代を過ぎると不満派が徐々に減少している。男性においては 20 歳代を除くと、50 歳代をピークとした同様の傾向がみられる。

【エリア別】

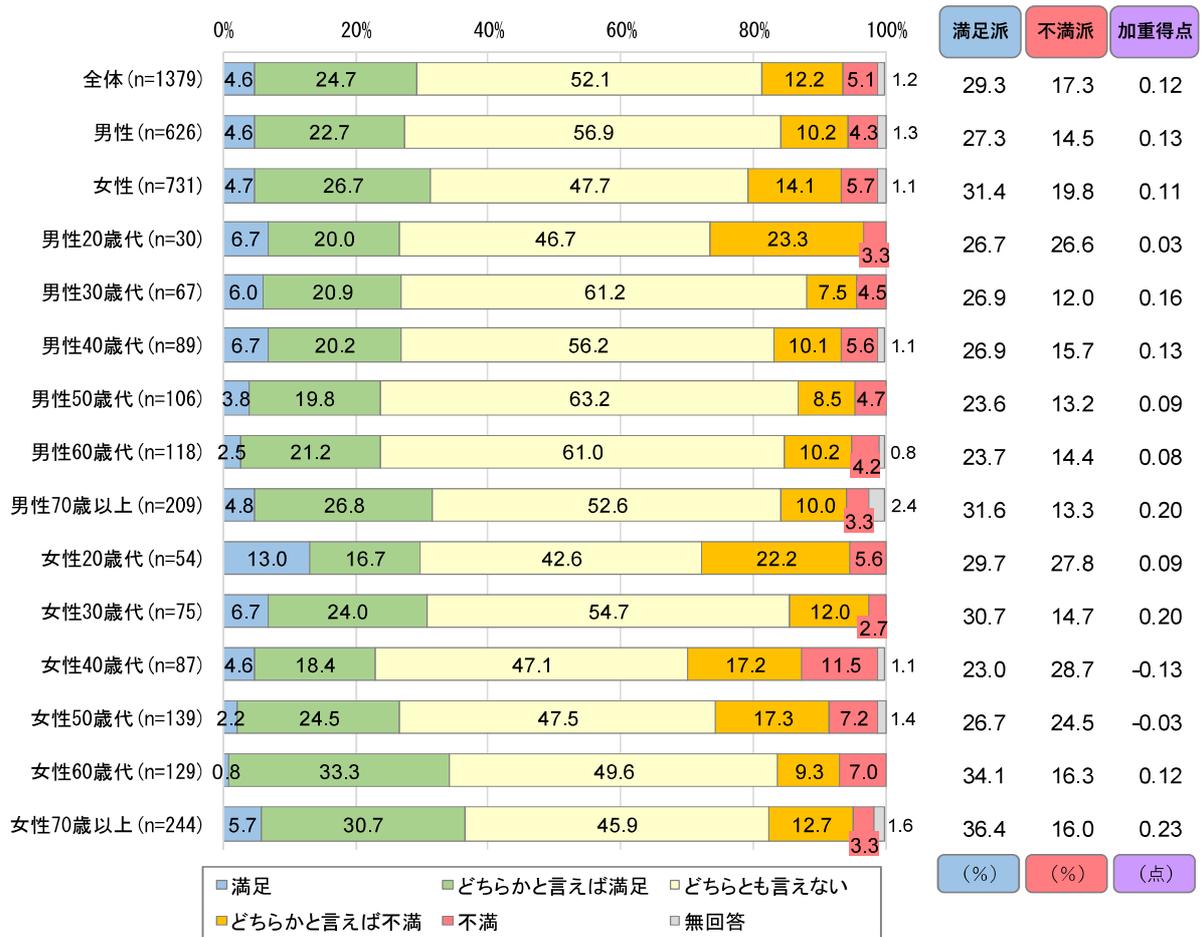


エリア別では、特に大きな差はない。

調査結果

⑨地域・コミュニティにおける人間関係

【性・年代別】

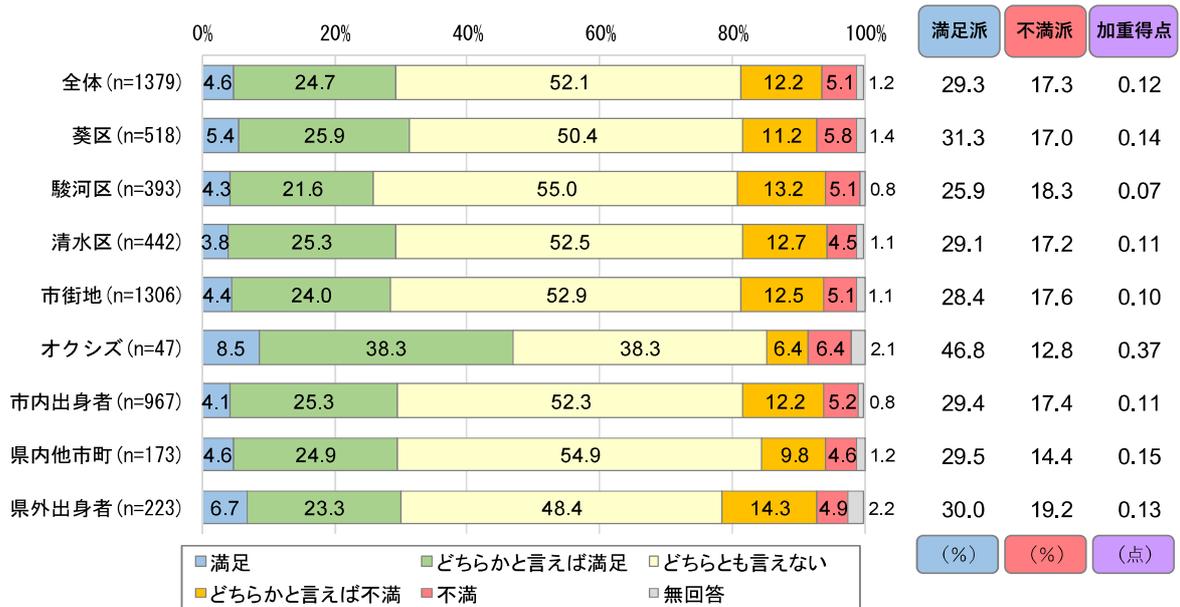


全体では満足派が 29.3%、不満派が 17.3%、加重得点は 0.12 点となっている。「どちらとも言えない」が 52.1%で過半数となっているのが特徴的である。

性別で見ると、男性では「どちらとも言えない」が 56.9%と、女性の 47.7%に比べて高くなっており、女性は満足派、不満派とも男性の割合より高くなっている。

年代別で見ると、男性 20 歳代と女性 20 歳代、女性 40・50 歳代で不満派が 2 割台と高くなっている。

【エリア別】

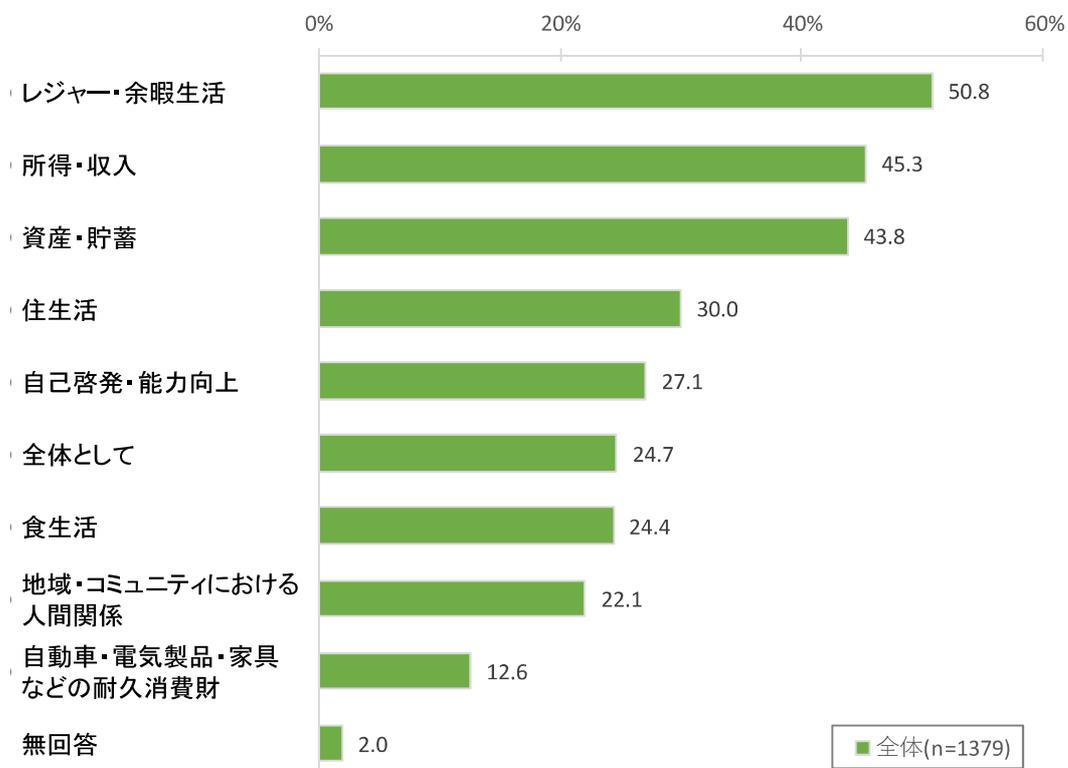


エリア別では、オクシズで満足派が 46.8%と特に高くなっており、加重得点も 0.37 点と高くなっている。

## 調査結果

### (2) 今後の生活で充実させたいこと

問2 あなたは、今後の生活において、特にどのような面を充実させたいと思いますか。この中から、いくつでもあげてください。



全体では「レジャー・余暇生活」が50.8%で最も高かった。次いで「所得・収入」が45.3%、「資産・貯蓄」が43.8%で上位となっている。4位の「住生活」から8位の「地域における人間関係」までは20%台から30%と、ほぼ横並びとなっている。9位の「耐久消費財」は12.6%と、他の項目より低い割合となっている。

## 調査結果

性・年代別、エリア別の数表は以下の通り。合計欄のみ、上段が回答数（単位：件）、下段が割合となっており、割合の高い順（最大 100.0%）に塗り分けしている。（無回答は除く。）

	回答数	全体として	所得・収入	資産・貯蓄	耐久消費財 自動車・電気の製 品・家具などの製	食生活	住生活	自己啓発・能力 向上	レジャー・余暇 生活	地域・コミュニ ケーション 関係における人	無回答
合計	1379	340 24.7%	625 45.3%	604 43.8%	174 12.6%	336 24.4%	414 30.0%	374 27.1%	700 50.8%	305 22.1%	27 2.0%
性別											
男性	626	24.3%	43.1%	42.8%	12.5%	21.6%	27.5%	26.7%	51.1%	20.8%	1.8%
女性	731	24.4%	47.3%	44.7%	13.1%	26.5%	32.6%	27.6%	51.2%	23.4%	1.9%
男性年代											
10歳代	5	40.0%	60.0%	40.0%	60.0%	20.0%	0.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%
20歳代	30	26.7%	66.7%	70.0%	13.3%	23.3%	23.3%	33.3%	53.3%	13.3%	0.0%
30歳代	67	26.9%	62.7%	59.7%	16.4%	14.9%	28.4%	20.9%	44.8%	11.9%	1.5%
40歳代	89	29.2%	60.7%	58.4%	19.1%	18.0%	33.7%	24.7%	57.3%	18.0%	0.0%
50歳代	106	15.1%	44.3%	57.5%	12.3%	21.7%	31.1%	27.4%	57.5%	13.2%	0.0%
60歳代	118	21.2%	33.9%	37.3%	6.8%	17.8%	22.0%	24.6%	50.8%	18.6%	2.5%
70歳以上	209	27.3%	29.7%	23.0%	10.5%	26.8%	27.3%	29.7%	47.8%	30.6%	3.3%
女性年代											
10歳代	2	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%
20歳代	54	24.1%	64.8%	63.0%	14.8%	22.2%	38.9%	29.6%	63.0%	18.5%	0.0%
30歳代	75	26.7%	69.3%	73.3%	12.0%	22.7%	36.0%	32.0%	66.7%	17.3%	0.0%
40歳代	87	20.7%	59.8%	54.0%	18.4%	25.3%	23.0%	27.6%	52.9%	9.2%	1.1%
50歳代	139	25.2%	49.6%	61.9%	15.8%	21.6%	36.7%	29.5%	54.7%	23.7%	0.7%
60歳代	129	23.3%	41.1%	36.4%	10.9%	25.6%	40.3%	27.1%	58.1%	23.3%	3.1%
70歳以上	244	25.4%	34.0%	23.4%	11.1%	32.4%	27.0%	25.0%	37.3%	31.6%	3.3%
行政区											
葵区	518	24.1%	45.8%	44.4%	12.7%	25.5%	28.2%	28.8%	51.9%	24.5%	1.9%
駿河区	393	23.4%	45.0%	46.8%	14.8%	22.9%	31.6%	28.8%	52.9%	20.9%	2.0%
清水区	442	26.0%	45.0%	41.6%	11.1%	24.2%	31.7%	24.2%	49.3%	20.1%	1.4%
地域											
市街地	1306	24.7%	45.6%	44.6%	12.9%	24.0%	30.7%	27.3%	51.4%	21.4%	1.8%
オクシズ	47	21.3%	38.3%	34.0%	8.5%	34.0%	19.1%	25.5%	51.1%	38.3%	0.0%
出身地											
市内出身者	967	25.1%	47.3%	44.5%	12.8%	24.1%	30.3%	26.6%	50.7%	22.1%	1.7%
県内他市町	173	20.8%	44.5%	45.1%	12.7%	24.3%	27.2%	27.2%	50.3%	20.8%	3.5%
県外出身者	223	24.7%	38.1%	40.4%	11.7%	23.3%	30.9%	30.0%	53.4%	22.4%	2.2%

「所得・収入」、「資産・貯蓄」、「レジャー・余暇生活」は全般的に高くなっており、「耐久消費財」や「地域における人間関係」などは低くなっている。

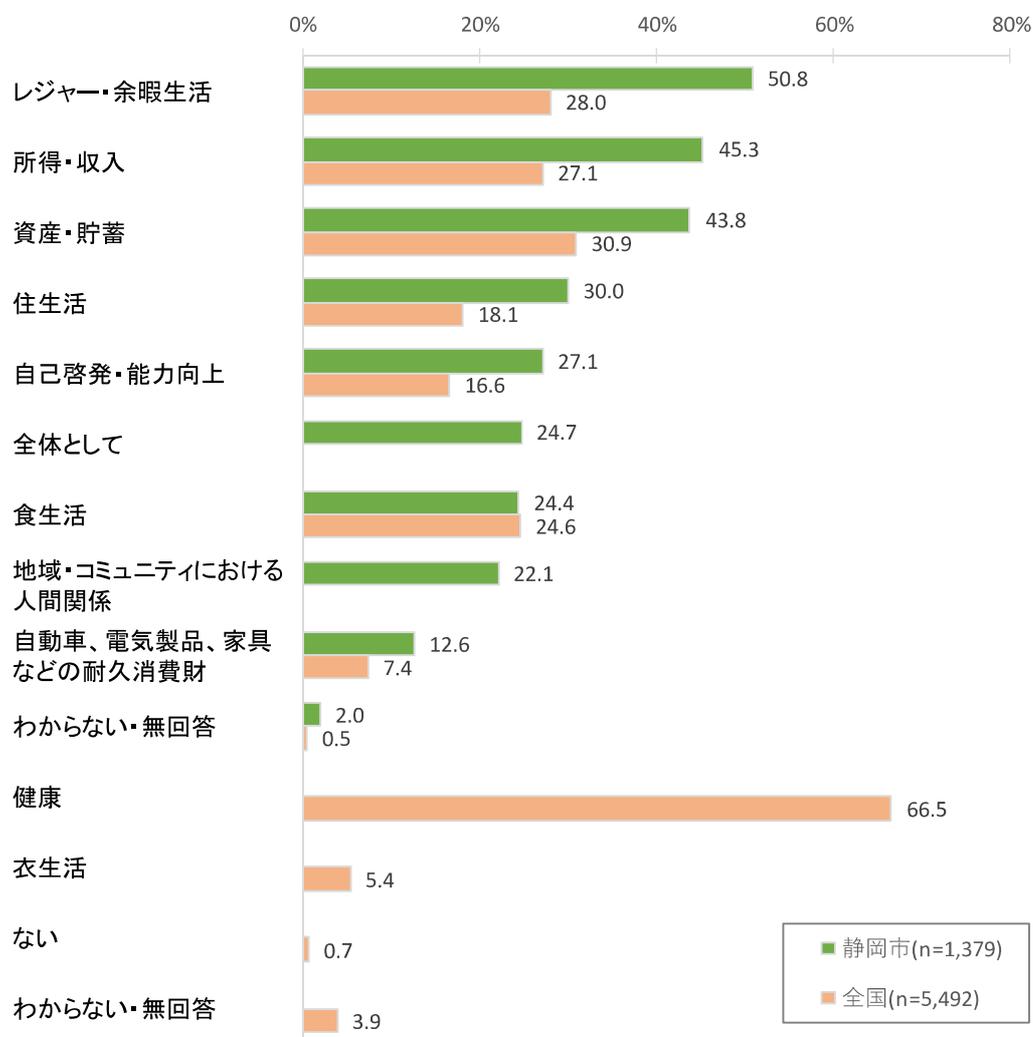
男性 50 歳代では「全体として」が低くなっているほか、「所得・収入」や「資産・貯蓄」は男女とも若い年代ほど高い割合となる傾向にある。「レジャー・余暇生活」は女性 70 歳以上で 37.3% と低い以外は、いずれの年代でも 4 割以上と高くなっている。

地域別でみると、オクシズでは「住生活」が 19.1% と低く、「地域における人間関係」が 38.3% で市街地より高めとなっている。

## 調査結果

### ※全国との比較（令和元年度国民生活に関する世論調査～内閣府実施）

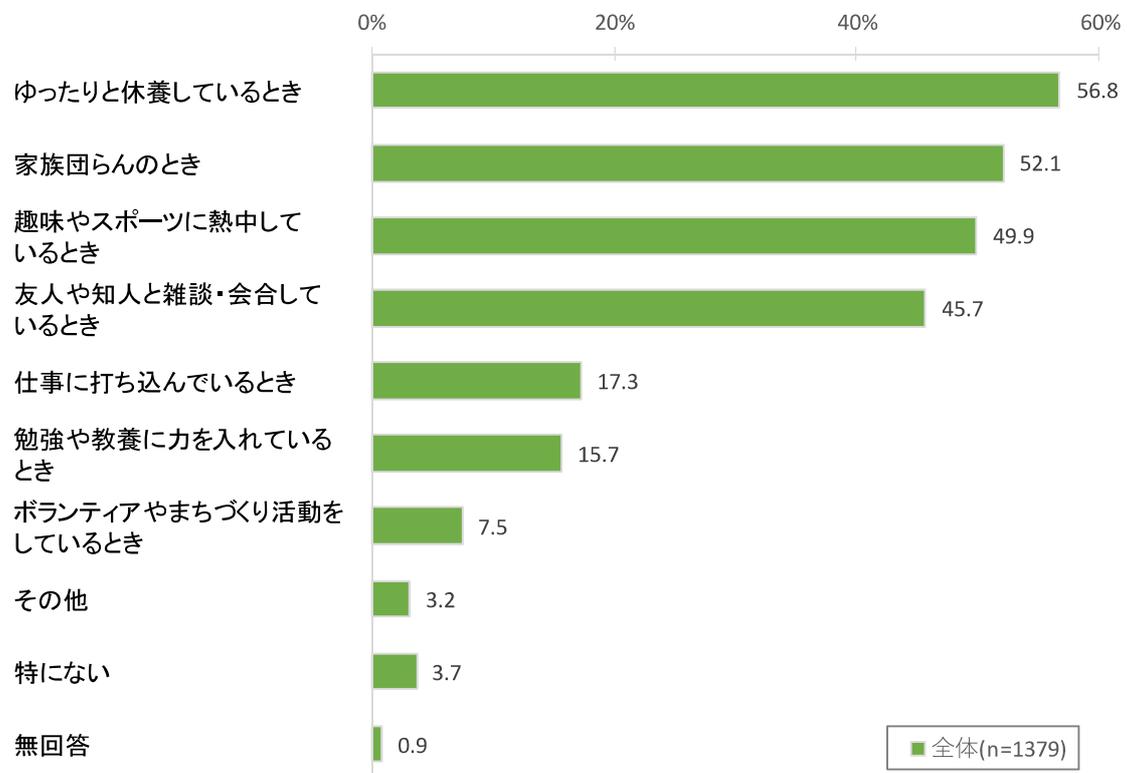
全国調査における「今後の生活の力点」では「健康」、「衣生活」、「その他」、「ない」の選択肢があるが、当調査では設定されていない。また、「地域・コミュニティにおける人間関係」、「全体として」は当調査のみの選択肢となっている。



共通項目に関してみると、全国では「資産・貯蓄」のほうが「レジャー・余暇生活」より高く、静岡市では「レジャー・余暇生活」が最も高くなっている。今年度実施した当調査では、新型コロナウイルス感染症に関連して移動の制限や外出自粛の要請が出るなどしていたため、余暇生活には大きく影響したとみられる。なお、全国調査は令和2年度・3年度とも中止となっている。

## (3) 心の豊かさを感じる時

問3 日常生活の中で、心の豊かさを感じるのは、主にどのような時ですか。この中からいくつかもあげてください。



全体では、「ゆったりと休養しているとき」が 56.8% で最も高かった。次いで「家族団らんのとき」が 52.1%、「趣味やスポーツに熱中しているとき（以降『趣味やスポーツ』とする）」が 49.9%、「友人や知人と雑談・会合しているとき（同『友人・知人と雑談』）」が 45.7% で上位となっている。

## 調査結果

性・年代別、エリア別の数表は以下の通り。合計欄のみ、上段が回答数（単位：件）、下段が割合となっており、割合の高い順（最大 100.0%）に塗り分けしている。（無回答は除く。）

		回答数	で仕事に打ち込んでいるとき	きを勉強や教養に力を入れているとき	とに趣味やスポーツをしているとき	しゆったりと休養しているとき	き家族団らんのとき	る友人や知人と雑談するとき	をボランティアやまちづくり活動をしているとき	その他	特になし	無回答
合計		1379	238 17.3%	217 15.7%	688 49.9%	783 56.8%	718 52.1%	630 45.7%	104 7.5%	44 3.2%	51 3.7%	12 0.9%
性別	男性	626	17.9%	16.3%	54.5%	54.8%	49.7%	39.0%	8.5%	2.2%	4.8%	1.0%
	女性	731	16.8%	15.3%	46.4%	58.8%	54.7%	51.7%	6.8%	4.0%	2.3%	0.8%
男性年代	10歳代	5	0.0%	40.0%	60.0%	80.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	30	3.3%	33.3%	76.7%	63.3%	36.7%	66.7%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	67	17.9%	13.4%	50.7%	56.7%	64.2%	35.8%	7.5%	4.5%	1.5%	0.0%
	40歳代	89	25.8%	19.1%	69.7%	59.6%	50.6%	38.2%	6.7%	1.1%	3.4%	0.0%
	50歳代	106	18.9%	11.3%	57.5%	59.4%	54.7%	35.8%	4.7%	1.9%	3.8%	0.0%
	60歳代	118	16.9%	10.2%	55.9%	55.9%	47.5%	28.8%	5.9%	2.5%	5.9%	0.8%
	70歳以上	209	16.7%	18.7%	43.5%	47.8%	45.9%	43.5%	13.9%	2.4%	7.2%	2.4%
女性年代	10歳代	2	0.0%	50.0%	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	54	13.0%	16.7%	61.1%	77.8%	66.7%	57.4%	7.4%	1.9%	1.9%	0.0%
	30歳代	75	18.7%	14.7%	44.0%	69.3%	77.3%	52.0%	5.3%	0.0%	1.3%	0.0%
	40歳代	87	11.5%	10.3%	39.1%	63.2%	57.5%	49.4%	3.4%	5.7%	1.1%	1.1%
	50歳代	139	23.0%	16.5%	49.6%	54.7%	54.7%	42.4%	2.9%	3.6%	5.8%	0.7%
	60歳代	129	24.0%	15.5%	46.5%	55.0%	52.7%	51.9%	4.7%	3.1%	1.6%	0.0%
	70歳以上	244	11.9%	16.0%	44.3%	54.1%	44.7%	56.1%	11.9%	5.7%	1.6%	1.6%
行政区	葵区	518	18.3%	16.2%	52.3%	54.4%	51.2%	46.3%	7.1%	2.5%	3.7%	1.4%
	駿河区	393	15.0%	16.0%	49.1%	56.5%	54.2%	48.3%	7.6%	3.3%	3.6%	0.5%
	清水区	442	18.3%	14.9%	48.2%	60.9%	52.7%	42.8%	7.7%	3.8%	3.2%	0.7%
地域	市街地	1306	17.1%	16.1%	50.1%	57.1%	52.9%	45.7%	7.4%	3.1%	3.4%	0.9%
	オクシズ	47	25.5%	6.4%	48.9%	57.4%	42.6%	46.8%	10.6%	4.3%	6.4%	0.0%
出身地	市内出身者	967	16.8%	15.2%	50.7%	58.2%	51.6%	45.8%	7.3%	3.0%	4.0%	0.7%
	県内他市町	173	15.6%	14.5%	46.2%	54.3%	60.1%	46.2%	6.9%	3.5%	1.7%	0.0%
	県外出身者	223	20.2%	19.3%	50.7%	55.2%	49.3%	44.8%	9.0%	4.0%	3.1%	1.8%

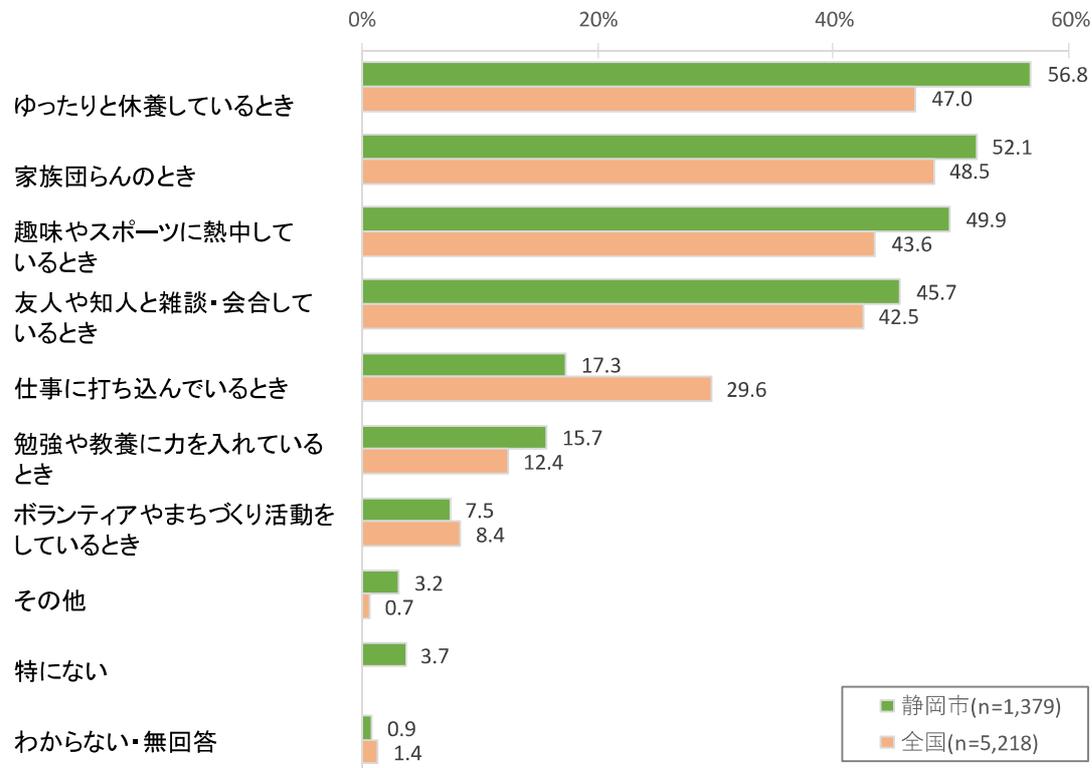
「趣味やスポーツ」、「ゆったりと休養しているとき」、「家族団らんのとき」「友人・知人と雑談」は全般的に高くなっており、「ボランティアやまちづくり活動をしているとき」は低くなっている。

男性 20 歳代では「勉強や教養に力を入れているとき」が 33.3%で他の性年代より高く、男性 40 歳代では「仕事に打ち込んでいるとき」が 25.8%でやや高くなっている。また、「家族団らんのとき」は男女 30 歳代が最も高く、年代が上がるほど低くなる傾向にある。一方で「友人・知人との雑談」は女性の各年代で 4～5 割台で高いが、男性では 20 歳代で 66.7%と高いものの、男性 30～60 歳代では 2～3 割台と低くなっている。

地域別でみると、オクシズでは「勉強や教養に力を入れているとき」が 6.4%と、市街地より 9.7 ポイント低く、「仕事に打ち込んでいるとき」が 25.5%で市街地より 8.4 ポイント高くなっている。

### ※全国との比較（令和元年度国民生活に関する世論調査～内閣府実施）

全国調査における「充実感を感じる時」では「特にない」は設定されていない。



当調査における上位4項目と全国調査における上位4項目は、順位と割合に若干の差はあるが、上位グループとしてみた場合には一致している。当調査の5位にあたる「仕事に打ち込んでいるとき」は、全国調査での29.6%に対し、静岡市では17.3%と、10ポイント以上低くなっている。

## 調査結果

### 2) 静岡市の施策の評価

#### (1) 静岡市の施策について

問4 静岡市の施策について、「A 現状への満足度」と「B 今後の重要度」別に、それぞれ「1 満足(重要)」から「5 不満(重要でない)」までのいずれかでお答えください。

##### 安全安心面の施策

- ① 自然災害への事前対策(インフラ強化、施設の耐震化等の減災対策)
- ② 自然災害や火災等発生時の対応(初期活動、避難、災害復旧など)
- ③ 自然災害・感染症などに対する医療体制の充実
- ④ 通常時の医療体制の充実
- ⑤ 道路や上下水道、ごみ処理施設等の生活に欠かせない社会インフラの維持管理
- ⑥ 暴力や犯罪などからの安全対策

##### くらし面の施策

- ① 市民が芸術や文化に親しむ機会・施設の充実
- ② 市民がスポーツをする・観戦等で楽しむ機会・施設の充実
- ③ 生涯学習、社会教育施設(図書館等)の充実
- ④ 子育て支援施設(こども園等)、子育て支援策、義務教育の充実
- ⑤ 高等教育機関(大学・専門学校)の充実
- ⑥ 高齢者施設・サービス等の充実
- ⑦ 障がい者(児)施設・サービス等の充実
- ⑧ 子ども、高齢者、障がい者(児)を地域で見守る体制の構築
- ⑨ 快適な生活環境(住宅や景観等)の維持・充実
- ⑩ 公園や歩道空間など公共空間の充実
- ⑪ 公共交通機関や徒歩・自転車で快適に移動できるまちづくり
- ⑫ 自動車で広域的に移動できる幹線道路の充実
- ⑬ 道路や施設のバリアフリー化推進
- ⑭ 年齢や性別、文化や言語の違いを超えて、活躍できる環境づくり
- ⑮ 地域コミュニティの充実
- ⑯ 地球温暖化対策・ごみの削減等による持続可能な社会の構築
- ⑰ 南アルプスや清流、駿河湾等の豊かな自然環境の維持

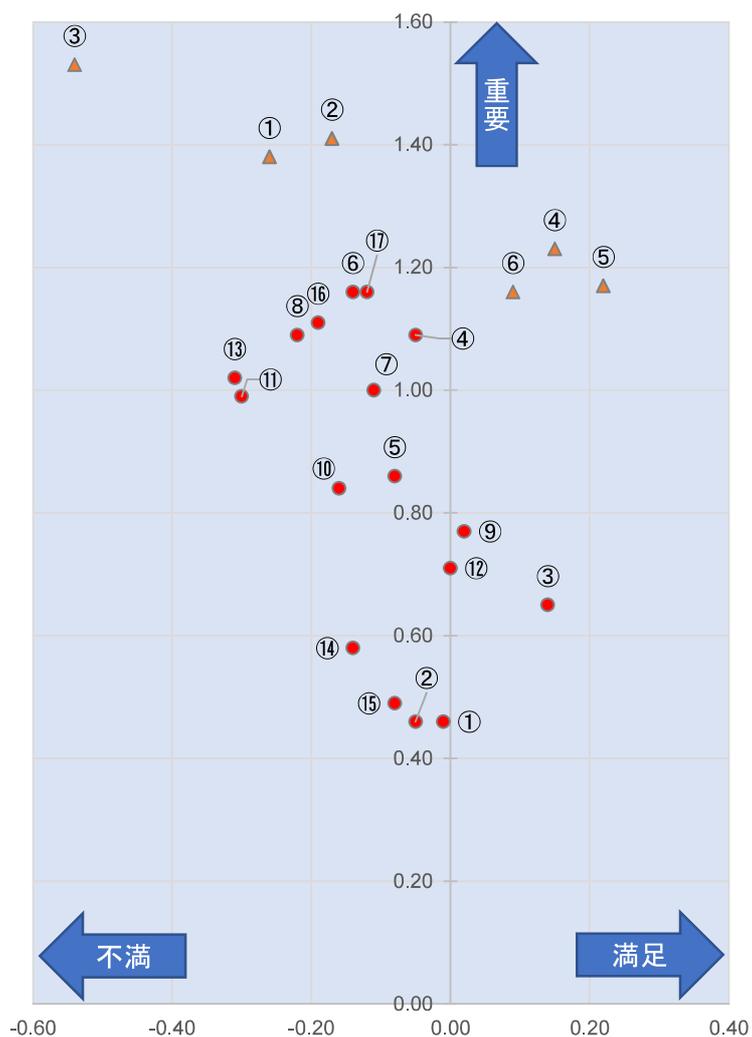
##### 活気・賑わい面の施策

- ① 海外の国や地域・世界の人との交流促進
- ② 自然資源や歴史資源等を活かし、世界中から人を呼び込む取組
- ③ 文化芸術やスポーツを活かして、世界中から人を呼び込む取組
- ④ 大道芸W杯のようなイベントで世界中から人を呼び込む取組
- ⑤ 起業家や勤労者が能力を發揮できる環境づくり
- ⑥ 企業の支援や誘致等で雇用を維持・拡大する取組
- ⑦ 移住・定住を促進し、人口・活力を維持する取組
- ⑧ 中心市街地を活性化する取組
- ⑨ 歴史を活かしたまちづくり
- ⑩ 静岡市の歴史を市内外に発信し後世に繋ぐ取組
- ⑪ 海や港を生かしたまちづくり
- ⑫ 市域の約8割を占める中山間地域(オクシズ)の維持・振興
- ⑬ 1次産業(農林水産業)の競争力強化
- ⑭ 静岡ならではの特産品や地場産業のブランド化



## 調査結果

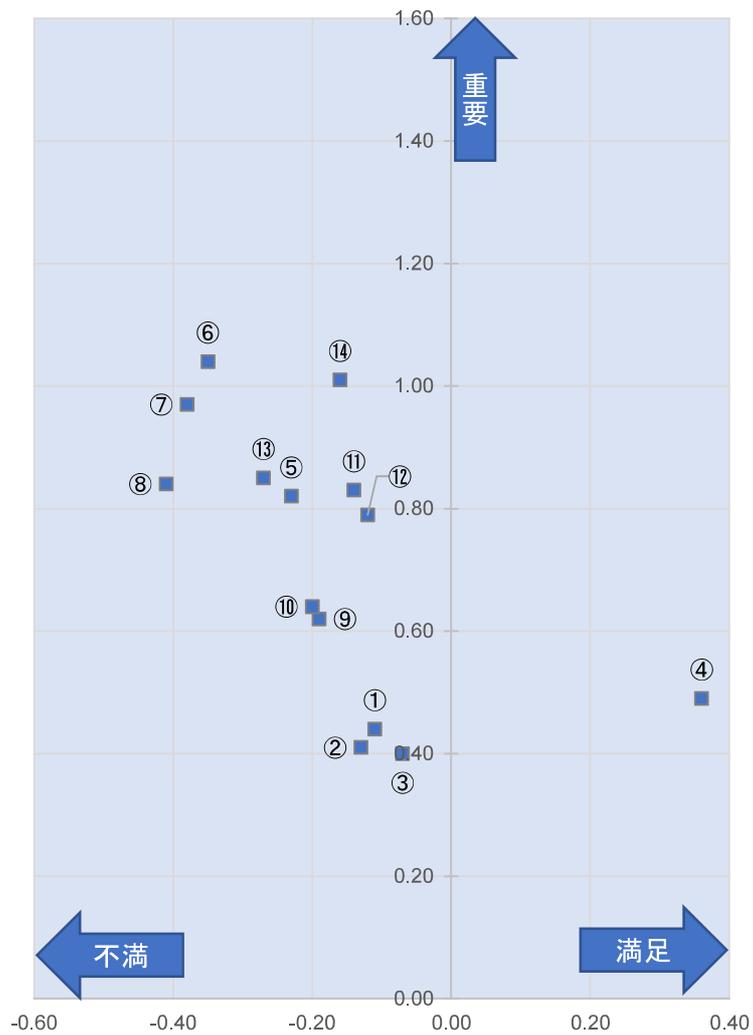
### 【安全安心面の施策・暮らし面の施策】



安全安心面での施策（▲）は6項目とも重要度が高くなっており、中でも「③自然災害・感染症などに対する医療体制の充実」は重要度、不満度とも最も高い。

暮らし面の施策（●）は、重要度では安全安心面での施策群に次いで高めの項目が多く、満足度では活気・賑わい面の施策群に比べると中心線の「0点」に集まっている印象である。

## 【活気・賑わい面の施策】



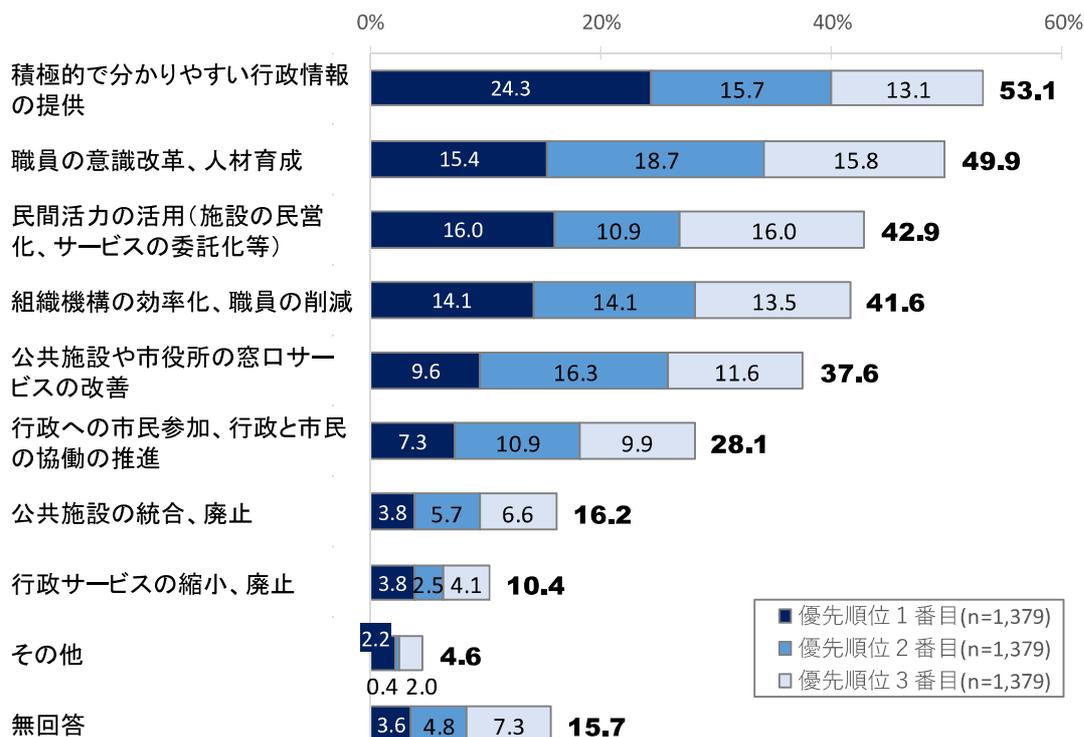
活気・賑わい面の施策（■）は、「④大道芸W杯のようなイベントで世界中から人を呼び込む取組」のみ満足度がプラスとなっており、全般的に不満度が高くなっている。特に「⑥企業の支援や誘致等で雇用を維持・拡大する取組」「⑦移住・定住を促進し、人口・活力を維持する取組」「⑧中心市街地を活性化する取組」は不満度が高い。

## 調査結果

### 3) 今後の行政サービスのあり方

#### (1) 行政サービスの維持における重視点

問5 厳しい財政状況のなか、これからも必要な行政サービスを維持していくための取組として、重視すべきことを、選択肢の中から優先順位の高いものを3つまで選び、番号でお答えください。



優先順位の1番目から3番目までを積み上げた結果（以降「積み上げ結果」とする）では、「積極的でわかりやすい行政情報の提供」が53.1%で最も高く、次いで「職員の意識改革、人材育成」が49.9%、「民間活力の活用」が42.9%となっている。

なお、積み上げ結果については、1番目から3番目までの延べ回答数を回答者数で割っているため、1番目から3番目の割合の合計と一致しないことがある。

積み上げ結果について性別で見ると、男性では「職員の意識改革・職員の削減」が54.2%（女性では46.9%）で最も高く、女性では「積極的でわかりやすい行政情報の提供」が59.6%（男性では46.2%）で最も高かった。

積み上げ結果について年代別で見ると、「民間活力の活用」は男性50歳代で59.4%、女性30歳代で57.3%と、他の年代では3～4割台となっている中で高くなっている。

性・年代別、エリア別の数表は以下の通り。合計欄のみ、上段が回答数（単位：件）、下段が割合となっており、割合の高い順（最大100.0%）に塗り分けしている。（無回答は除く。）

調査結果

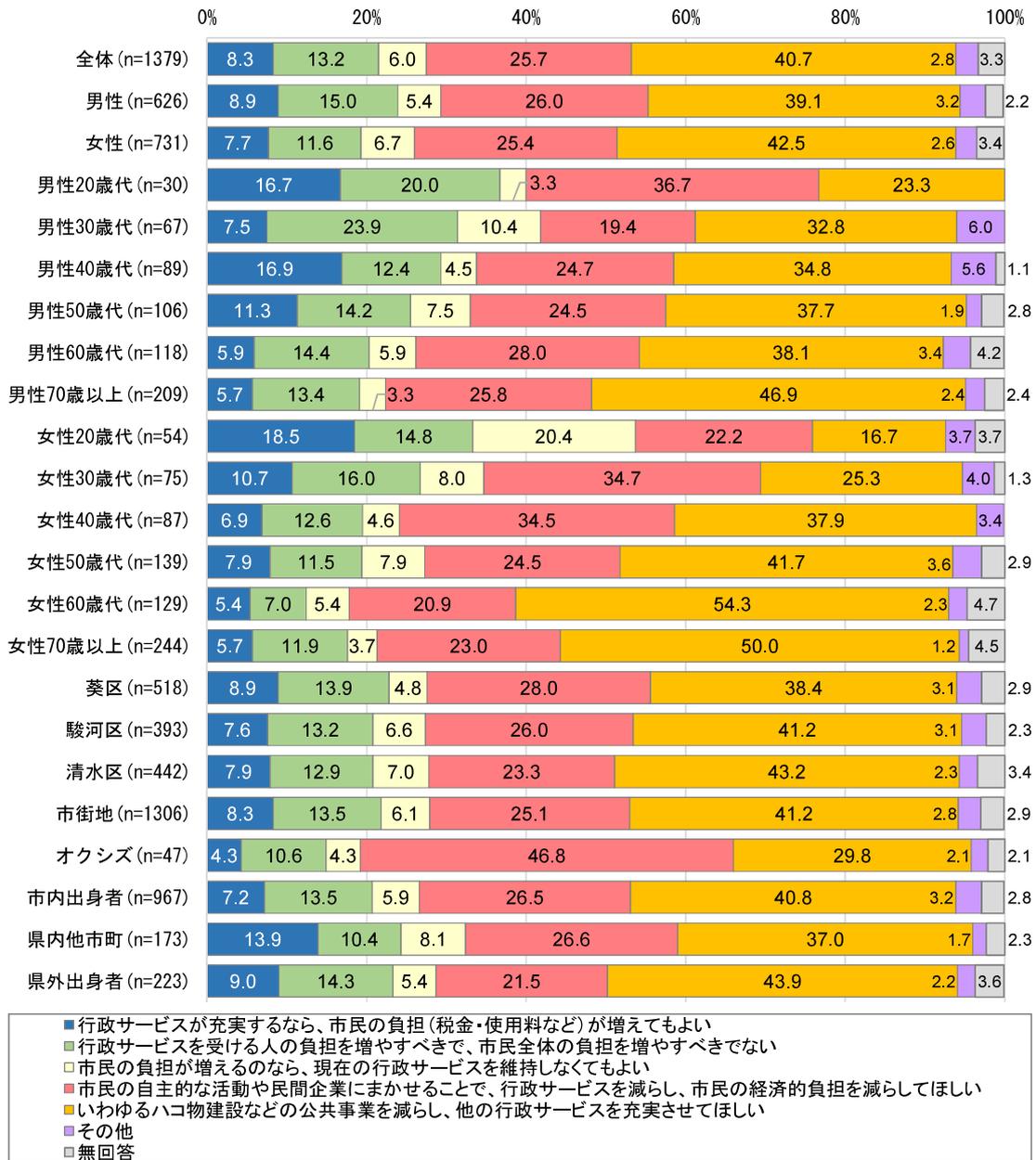
合計 1～3番目の積み上げ		回答数	縮小、廃止サービスの	民間活動の活用 （施設サービスの委託化等）	公共施設の統合、廃止	行政への市民参加の推進	積極的な行政の推進	積極的な行政の推進	公共施設の改善	職員の意識改革、人材育成	組織機構の削減	その他	無回答
合計		1379	144 10.4%	591 42.9%	223 16.2%	388 28.1%	732 53.1%	518 37.6%	688 49.9%	574 41.6%	63 4.6%	216 15.7%	
性別	男性	626	10.2%	45.8%	18.5%	27.8%	46.2%	33.4%	54.2%	45.4%	6.1%	12.5%	
	女性	731	10.5%	40.4%	13.8%	28.9%	59.6%	41.6%	46.9%	38.3%	3.4%	16.6%	
男性年代	10歳代	5	40.0%	40.0%	20.0%	20.0%	60.0%	60.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	
	20歳代	30	13.3%	46.7%	13.3%	30.0%	50.0%	36.7%	50.0%	43.3%	6.7%	10.0%	
	30歳代	67	16.4%	47.8%	19.4%	26.9%	41.8%	44.8%	46.3%	43.3%	4.5%	9.0%	
	40歳代	89	15.7%	41.6%	16.9%	27.0%	53.9%	33.7%	49.4%	43.8%	9.0%	9.0%	
	50歳代	106	10.4%	59.4%	20.8%	24.5%	37.7%	30.2%	57.5%	50.9%	6.6%	1.9%	
	60歳代	118	9.3%	42.4%	15.3%	28.0%	46.6%	35.6%	56.8%	44.9%	5.9%	15.3%	
	70歳以上	209	5.3%	42.6%	19.6%	30.1%	47.8%	29.2%	56.5%	44.0%	5.3%	19.6%	
女性年代	10歳代	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
	20歳代	54	18.5%	44.4%	14.8%	40.7%	63.0%	46.3%	29.6%	25.9%	1.9%	14.8%	
	30歳代	75	16.0%	57.3%	13.3%	30.7%	52.0%	40.0%	48.0%	28.0%	4.0%	10.7%	
	40歳代	87	12.6%	46.0%	14.9%	19.5%	54.0%	54.0%	50.6%	39.1%	2.3%	6.9%	
	50歳代	139	12.2%	41.7%	15.1%	22.3%	55.4%	48.9%	42.4%	45.3%	2.9%	13.7%	
	60歳代	129	6.2%	41.9%	14.0%	25.6%	65.9%	36.4%	54.3%	40.3%	1.6%	14.0%	
	70歳以上	244	7.8%	31.1%	12.7%	34.4%	62.3%	34.8%	47.5%	38.9%	5.3%	25.0%	
行政区	葵区	518	10.0%	44.0%	14.7%	30.7%	55.8%	35.7%	50.2%	39.8%	3.5%	15.6%	
	駿河区	393	9.4%	44.8%	15.8%	27.5%	53.2%	41.0%	47.3%	39.2%	6.1%	15.8%	
	清水区	442	12.2%	40.3%	18.3%	25.8%	50.7%	37.8%	51.8%	45.7%	4.5%	12.9%	
地域	市街地	1306	10.8%	43.0%	16.1%	28.0%	52.9%	38.3%	49.8%	41.6%	4.7%	14.9%	
	オクシズ	47	4.3%	44.7%	19.1%	31.9%	66.0%	27.7%	51.1%	40.4%	2.1%	12.8%	
出身地	市内出身者	967	10.1%	42.8%	16.0%	27.7%	54.6%	38.3%	49.9%	42.7%	4.8%	13.0%	
	県内他市町	173	12.1%	41.0%	19.1%	30.1%	54.3%	37.0%	48.0%	40.5%	2.3%	15.6%	
	県外出身者	223	10.8%	45.7%	14.8%	29.6%	48.0%	36.3%	52.0%	37.7%	5.8%	19.3%	

1番目		回答数	縮小、廃止サービスの	民間活動の活用 （施設サービスの委託化等）	公共施設の統合、廃止	行政への市民参加の推進	積極的な行政の推進	積極的な行政の推進	公共施設の改善	職員の意識改革、人材育成	組織機構の削減	その他	無回答
合計		1379	52 3.8%	220 16.0%	53 3.8%	101 7.3%	335 24.3%	133 9.6%	212 15.4%	194 14.1%	30 2.2%	49 3.6%	
性別	男性	626	4.3%	15.7%	5.0%	8.5%	18.2%	9.9%	18.1%	14.9%	2.9%	2.7%	
	女性	731	3.4%	15.6%	2.7%	6.6%	30.0%	9.4%	13.5%	13.4%	1.6%	3.7%	
男性年代	10歳代	5	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	20歳代	30	3.3%	16.7%	0.0%	6.7%	20.0%	23.3%	13.3%	13.3%	0.0%	3.3%	
	30歳代	67	9.0%	19.4%	4.5%	7.5%	7.5%	17.9%	11.9%	19.4%	3.0%	0.0%	
	40歳代	89	5.6%	15.7%	3.4%	7.9%	22.5%	11.2%	16.9%	11.2%	5.6%	0.0%	
	50歳代	106	4.7%	19.8%	5.7%	8.5%	16.0%	6.6%	19.8%	16.0%	2.8%	0.0%	
	60歳代	118	2.5%	13.6%	9.3%	5.9%	17.8%	11.9%	18.6%	15.3%	1.7%	3.4%	
	70歳以上	209	2.4%	13.9%	3.8%	10.5%	21.1%	5.3%	19.6%	14.8%	2.9%	5.7%	
女性年代	10歳代	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
	20歳代	54	3.7%	24.1%	0.0%	5.6%	31.5%	9.3%	9.3%	11.1%	1.9%	3.7%	
	30歳代	75	2.7%	17.3%	5.3%	6.7%	28.0%	8.0%	14.7%	12.0%	2.7%	2.7%	
	40歳代	87	2.3%	16.1%	4.6%	4.6%	25.3%	9.2%	20.7%	14.9%	1.1%	1.1%	
	50歳代	139	4.3%	12.2%	2.9%	5.0%	30.2%	14.4%	12.2%	15.1%	0.7%	2.9%	
	60歳代	129	3.1%	16.3%	0.8%	4.7%	34.9%	8.5%	14.0%	14.0%	0.8%	3.1%	
	70歳以上	244	3.7%	14.8%	2.9%	9.0%	29.5%	7.8%	11.9%	12.3%	2.5%	5.7%	
行政区	葵区	518	2.3%	17.2%	3.5%	7.5%	25.9%	9.5%	16.6%	11.8%	1.7%	4.1%	
	駿河区	393	3.8%	15.0%	4.1%	6.9%	24.9%	10.2%	15.0%	14.0%	3.3%	2.8%	
	清水区	442	5.7%	15.4%	3.8%	7.5%	22.2%	9.5%	14.0%	17.2%	1.8%	2.9%	
地域	市街地	1306	4.0%	15.7%	3.8%	7.2%	24.3%	9.9%	15.4%	14.2%	2.2%	3.3%	
	オクシズ	47	0.0%	23.4%	2.1%	10.6%	25.5%	4.3%	12.8%	14.9%	2.1%	4.3%	
出身地	市内出身者	967	3.7%	15.4%	3.5%	7.2%	25.3%	9.7%	15.7%	14.4%	2.1%	2.9%	
	県内他市町	173	2.9%	18.5%	4.6%	7.5%	26.6%	10.4%	11.0%	14.5%	1.2%	2.9%	
	県外出身者	223	4.9%	16.6%	4.9%	8.1%	19.3%	9.0%	16.6%	12.6%	3.6%	4.5%	

調査結果

(2) 市民負担と行政サービスのあり方

問6 市民負担と行政サービスのあり方についてどのようにお考えになりますか。あなたのお考えに最も近いものを1つお答えください。



全体では「いわゆるハコ物建設などの公共事業を減らし、他の行政サービスを充実させてほしい（以降『ハコ物以外を充実』とする）」が40.7%で最も高く、次いで「市民の自主的な活動や民間企業にまかせることで、行政サービスを減らし、市民の経済的負担を減らしてほしい（以降『市民や民間にまかせる』）」が25.7%となっている。

性・年代別でみると、男性20歳代と女性30歳代では「市民や民間にまかせる」がトップとなっている。また、男性20・30歳代では「行政サービスを受ける人の負担を増やすべきで、市民全体の負担を増やすべきでない」が2割以上と、他の年代より高い。「ハコ物以外を充実」は、

## 調査結果

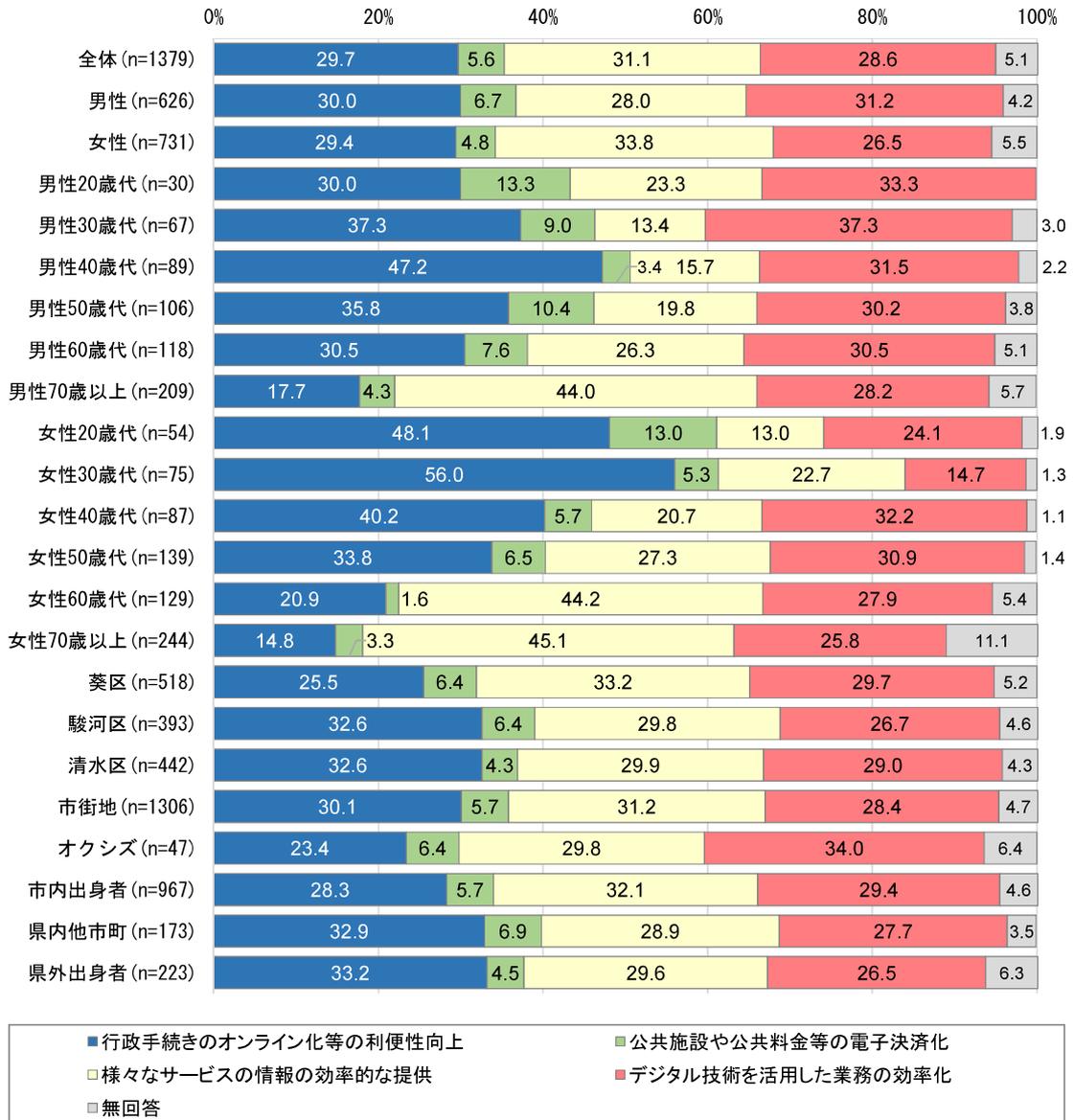
男女とも年代を追うごとに割合が増えていく傾向にある（女性 70 歳以上を除く）。

エリア別でみると、オクシズでは「市民や民間にまかせる」が 46.8%と、市街地（25.1%）の倍近い割合となっている。

調査結果

(3) デジタル技術を活用した行政サービスの提供における重視点

問7 デジタル技術を活用した行政サービスの提供では、どのような視点が重要だと考えますか。1つだけお答えください。



全体では「様々なサービスの情報の効率的な提供（以降『情報の提供』とする）」が31.1%、「行政手続きのオンライン化等の利便性向上（同『行政手続きの利便性』）」が29.7%、「デジタル技術を活用した業務の効率化（同『業務の効率化』）」が28.6%と、「公共施設や公共料金等の電子決済化（5.6%）」を除く3項目でほぼ等分されている。

性・年代別でみると、女性20・30歳代を除く各年代では「業務の効率化」が3割前後で一定の割合となっているが、「行政手続きの利便性」と「情報の提供」は年代によって偏りがある。「情報の提供」は男性では50歳代以下、女性では40歳代以下で1～2割と低いが、男性60歳代以上と、女性50歳代以上では、年代を追うごとに増加している。「行政手続きの利便性」は男性では40歳代の47.2%をピークに、女性では30歳代の56.0%をピークに、それぞれ年代を追うごとに低くなっている。